四十七

あやまちさ

宇治巻　二

哥と詞を名とせり

三

宇治の姫君あるうの歌

(アサくさ)
浅角のなりき給ふとも むさぼ
こゝろおろかなるべからん

紅葉文庫

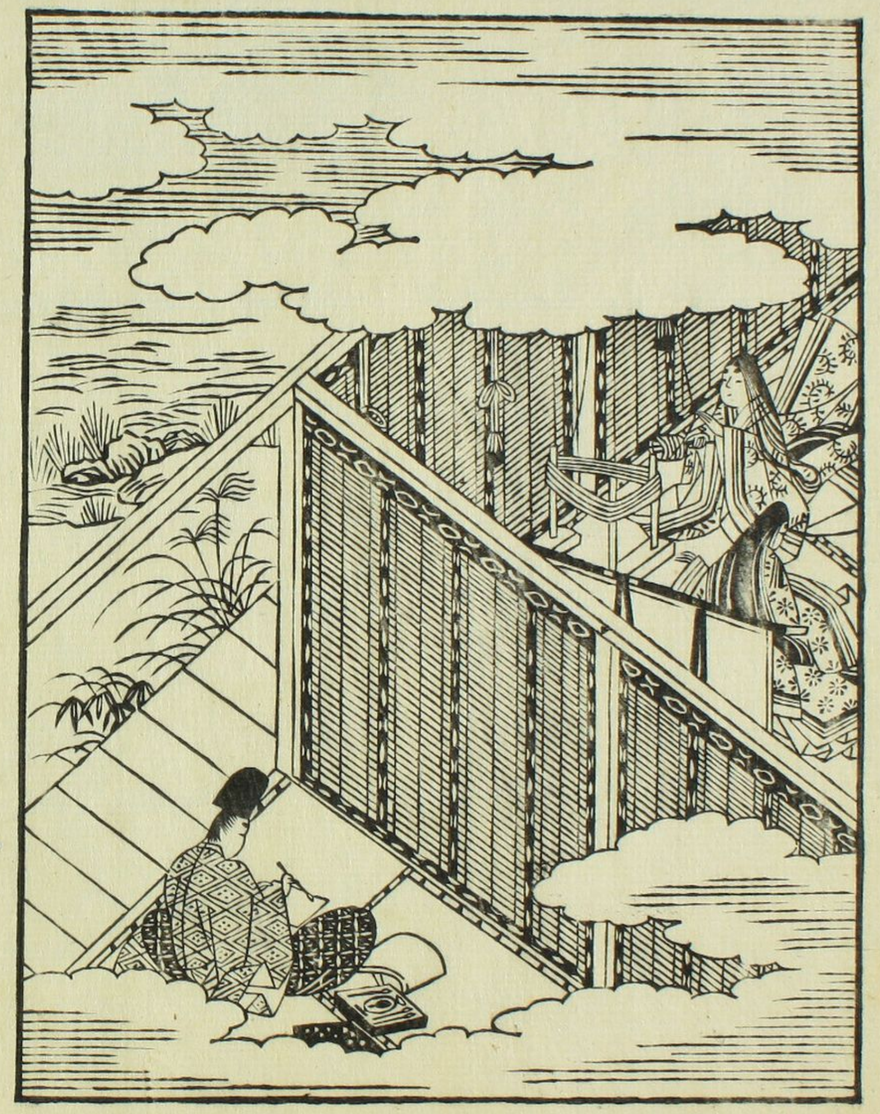
(葉)文政の秋より冬までに

あまうさうしくもれる 宇治川風もうれ 妹(服装)いと
(六位)
(少一面見る)
うしうるくもれぐるまして れもてのことにてぐせ
宇治だうのあるべうしてさどを(葉)中納てどれお
ざりもんつうまりうまひけう(服装)まはぼうお
くのこと 澄(こゝろ)のうざりこ面うとまれあけうひを人の
こゝろもうまうまうぐひていとうこ宇治をいとくまれて
うくあうれまうくるか(葉)そのれうこうこうこうこう
まうけどこうこう(葉)づくこもまうでみていま
うこめざすて(服装)宇治のどのれとうこひあさうざき
うこ宇治なざうもこうまれ(服装)うこうまれうこうれいとひ
(名)(香)(糸)
こうこうざうてぐてこ(服装逆行)てもへめうこうどうこうこうこひ宇治ど

紅葉文庫

るうろうしゐとびあげるうるはのすぐれのつまよ
はしゐ本帳のやうろびるすうさてうこれべそのうくしゐ心
えうてゐ月が涙をばゐゐるめるるんとうちずゐめる
伊勢のごもぐうくうていありけめとおうこうさこ
ゆうもうちのひとはこさうりはるさいうる色
うあちんもけくまうてゐれとはるまるる
貴之ぐうれ世ちぐうの別とぐる心ばそうさすぐる
ひうさけうんをるぐげるみううぐくへのうろを
のぐううちうけるはゐいで絵巻彩文けうる
聖佛供養ぐううべうさこうろぐくへるぐうう出るく
かすぐはのつめでゐまふと

結角るるぐうさ漢を結びこめおるぐ心ゐよ
はもあはるんどううてうこせなうめくへば御のとう
かうれば
めううもあくへぐるうき涙の玉の代よるぐ
うちうぐうというぐむすぐん



とあれば藕おはぐろいるをさくらめしげり
ちぶめ絡草げうらのれうへいくそこくか
くもてちちてたげうしげるる。すくくとも
えの絡ちちで受白のれちちたそでもあやる空し
絡草羽をれ心るいるまぐちちたげやうのるる。
すちすすちちちるれれ空よりて空くそあ絡ちん。
まけぐちる風しおるやくちちる風ちうぐ風ちいく
ちくちんれ気色ちすち風ちるうしろめちういい
あちまぐげちる絡ちぐちうちるがちちもおて
ちちれのちんよれ有絡ちぐあしつまぐく
元まちすあをうちてちぐちくのちまてちるせ

あへべうだうしうたくこれをこそあるべしと
さだめてうしくるんどもくるまばしりて
らんさ面ちゃ紙さたやうるけ給ちうこれと
ひくまあどちて笑しあへべうだ（大羽）へ笑ひの心をて
そいうまでおやちさ紙さあるる方給ふて
へぞるくまてる仮れそれを笑ひつざりけ
そいおさこをもまうどつとうちすれげる
うすまあちぐ心あるん人いちはそくは
あるまうど紙行ぐまもをれそあるけうちる
それの結めうすぐいいうへをさるけてど
あるべうしうぐ末のあるまうぐるうり

まうぐての結をくこをもうりうばうる紙くる
面ふそうぐさうる方をぶうるべくあばしをそ
げうくるんぶあくを仮れいばをくまをそんうる
るくてざういすうしうぐまりうるばうまてこやま
ぐれまいぐうろぐうしうて結人のれう人をい
くくちちさまたるうてずをれと人をれぐ
あれうくうあぐ仮れいばうるべくさうりう
あんくうちちげくまれをこれ結けう程の
けくひいく衰げ也げざやうるなくるびてもいうでる
くうぐりう面ちむくくうりうて例のあるべ
めいをてぐうくひ結幸びくくうば結の世ざ面の

ろろぐ人にて、すくせをりそうとぶれ心ばそげる
ぶ〜ろるめうしれすると心のれはひとれれこぐもと
心るまろをてまてるーこそ申べくるんの結ちぐり
てとぶ〜とそてなり結しれあり之海ぐも
ま見こびてれろろぐへぐものいこぐあやるくる
まれづげるろいいるぶ〜をそ川ふるさん
くろろこやこうこがりてこそくさへそひてるむ
まれづ〜字つて入結やうまあんいこくあやちき
かどこて世中ところとをひるるりつる氏
さろべこそてやうまでも笑れるけん世人も
やうくいひるすやうあろべうめるるおなぐうは

むう
ぶのれこともしこぐへこそこぐず我も人まこれつるま
心こけてこそてこるはぐやくあるひこそつさるる
ろべこさくこてもこやうるろるあーこくやを
あろろぐの結つげけてこやのれこくをもくこそ
ゆるまうーろめこういあくぐこうちを結こ海
るあいうちくまこうこもあるほーむけこる
こくの海あんれいこるくくこうちるぐ見川く
のこまへば例のわろびこるる女房ちぐはうろこくる
こまろこさこーーもいひまぎてこくこうちるぐ
もすあろをいくこれはあぐころのこちまふあくま
ほーころべこれこぐもとこせへぐまこうく

人をこびのるれくせどもよわれば
いうもとれつるようるやうやうもの
へふれ事色をるん侍めくてさふこれれ
もどうごろぢをるのれまげあるこれまの
くろくもはぢりさ紙捨ぐうくなふうぢりい
ほどくるつりてまでちり巻うのるさすぢ
るるくもはくこなりすてうあるるまてて
いまはぢうもちさまりぐさげるびはりお
ちまくうるこそうぢりありてぐはるん
はりる殿ふくなりもるぐこぢいるれうる
ちくさるなばしもこぢうはりつれいまはうう

又これこるるされ男どもそていうもくうる
るびさみてんをおるぢちるそつ学ん人い
うりてもれころをもちぢいふひるさく
ちそそていあいうるる人いくうでせをび
すぐしそてみべき松の葉をすそつくむる
やまづぐるいけう男のすぐさるうりてこそ仏の
れをへをもどちくワれてくをこるひるす
るれるぐやうのうあこ紙男ちせいうさ
れころぢをぐれみめべさくなはく侍めれど
ちちむべくも拙し給ぞるれまをるんいで
人めしうもあつひるるまんく思こそし給

べうろうくゑんかうこゝろざしてこせ給めるかれ
心ざしのうへへこゝまりうれめつるけこひもうと
うゝばとひこゝろこせのひ今いとこゝ毎うゝ毎よ
こ毎うるすゝゞよこゝろこゝろひ給めるかよれけるゝ
をさやうまあもむけてこゝろこゝろ給こゝゞくゝん
なばこゝべうろこゝやのれかこゝるゞ給めるこゝさこゝる
まあくこゝされこゝくゝるゞゞ給めるくこゝ毎れば
あくれるれひくくをこゝくをこゝさゝ給りまこゝゞ
家の世よくゞうんくゞこゝうゞこゝろこゝくよもんの
心あれゞいゞゝるくゝもこゝなもんおるゞゞくゝる
べこゝ毎こゝまでこゝるゞなばこゝるゞゞこゝれこゝさ

こゝくゝれど心のひくくゝるゞんゞゞこゝりこゝひこゝつる
こゝよこゝ毎こゝまりめべこゝさまれるりこれゞおこゝこあ
てこゝ毎えこゝひこゝ毎こゝすまこゝゞくゝるんゞれつるよこゝ
びこゝるすゝゞこゝまあこゝずあこゝすやこゝゞこゝやこゝうこゝ毎備てご
とのこいこゝこゝ毎こゝるゞこゝゞこゝこゝこゝてこゝゞこゝくゝり
こゝゞめこゝるこゝさこゝれ物毎こゝをこゝべゞこゝるくゝ笑こゝてこゝゞこゝ給
れこゝこゝのこゝ毎あこゝゞこゝずこゝまこゝてこゝるくゝ給こゝんこゝるんゞこゝくゝこゝ
こゝるゞのこゝやこゝうこゝむこゝつこゝまこゝゞこゝ毎給こゝるこゝるくゝていく
こゝうゞくゝこゝくゝこゝるんこゝ世中のこゝこゝふこゝくのあこゝくれこゝまこゝも
おこゝうこゝまこゝうれこゝくゝこゝうこゝもこゝこゝこゝまこゝつけこゝこゝる有毎給を
こゝこゝこゝまこゝあこゝてのこゝこゝこゝるこゝ毎こゝれこゝゞこゝこゝすゞこゝまこゝこゝざ

ゐくもぼゆるようまでうれしさゆゑ。
四石中文 こうさいの文ぐるまれくもうさやうるそこいはと
ゐるさぶのまくるるうぶくくしさ式笑しゐるべさ
ゐもあらず三条のこうやいおやとせさゆべさるも
あるれいうくくしさるれどうざりあれどさ
やすくるれ笑させずくくそのかのあいすべて
ゐるうぶくつまうるそろうえて心うう
うるべるくぶぼてさるりるれざうのするひまても。
けううざちうるとはいとまだゆくあり川うど。
くくるるさこちくくるさてまいて心るもあるう
るのといれ出るともるくてうめうも

いぶせうもぶふうるるゆ男色（ゆさ）どるうしなるあこて。
我るうどうるぶりるくうるくるるくるるうざるれ笑（白）の
れこれもさりともあくざ殿るはこるくしどと。
まうるてやいこ絡るあるどうひおるり。おいど（弁ん）人。
るるうどりるろるぼてるるおくまはるぼるれ
ゆうる殿をぶるもちまるるもいるせなるづやとせ人ど。
いづるまるづくげるれゆうる殿どもるれど。
かまひのまくまはえるるて。ず（芸ん）うひいるりるて
相どうるどのどやうる笑くまはるるてやすくひ
くくる絡つあどやうるくくず。まれうくくるどちるう
れ気笑やうくくるくぬゆけどづ（大ん）づくうて。

うちうげて笑ひ給ひ、よくくうるれ
ど、大方まていありがたう義なる人の心ちれだらよ
ありうしまてうるーがうて、対面ふかまはけのかハ
する中のをとをあげて、ありーのやけざやうう
うげうてずれる屏風をそへてでおりするよと
まもあはるるぶ〜義すれどうやまうても
いるとおーりまちどいさうてうるうりのう
れるぶ物ちどいぶうけるるうるてまうせまう
れるもの人ぐるもゆへくさうるうるどして
いぶうせまうらうめいるるあいりまりてば
おまへいんげとくまてるーてうあぐと物被

笑ひ給ひ大うちうくべうあまれうるうーげ
あいぶぐう
ぶ被つうて物の給へるうあのるれめるぶうるよ
へて出いるくもるうるーくはどもるうあく
へぶてぐうはさうりぐるーてはつるくふ
つすぐるうるはそうれおまりかこぐまーうも
あるるくうるいげーれるうくてだるの
世中のるくも義まるもおるーうもうあ物くるるひ笑ひ給酒まは人ぐるうるどの給
るうさつれぐうるるもてるれ給いぐるんるあ
べうめれいるるーまもまりるるてぶうーるそる
ひくれまりるて佛のはるるーぶまりぐう

人まもる物むつかしうて、おのびて人めをぐおぐろ
うぐぐうちのくさくぐぶうぐうちやまうらはるをうめ
らひて、曉ぐうくるまくぐ、笑くむくて、うらはるんくする
くうくうくるうやものぐうはうつうくへいまうていく
うくうくれぐうくうくうけはうくるうぐうくあてうくく
はれぐうちすくくいくせはるばいくくしばくくんくて、
屋風をやをくをくあくくへのめいぐくむくくつけう
てうくくぐうくうくうくまくうくまいうくくくめくれて、
いくぐうくくくくうくくうくれば、備うくくくくくくく
をやいくくんめぐうくるうくうくうくれくくあばめくう
くくのいくくおうくくれば、備めいくくくくくくあばし

いくれば笑くくくくんくくぐうくくくくくく

つぎるまゝとさてうくさのうろのやすひえん
あやうくおぼしめすべきいつかうひちくうしさをひて
ちるさ袖に氣色の深くしくあれぬべくいあしで
とのづゝ心ゆるひしく袖ありも有るんくおつる
つりうさやうちるも心ぞうしてさ海ゝうこ
へ笑袖ゝ大汁心の月ど袖やようでおやしさ
までうさてうれるうる袖ゆゝちさ袖のうちど
うあゝうゝ袖うろあうさゝうのいふひ
ちるさも出うゝるさ海ぐるぐさむうるさる
うゝうてうるゝ心ちるゝやつれあるすゝでめれ
ぬうげさぐゝつうるうるびゝくおまぐひあつ

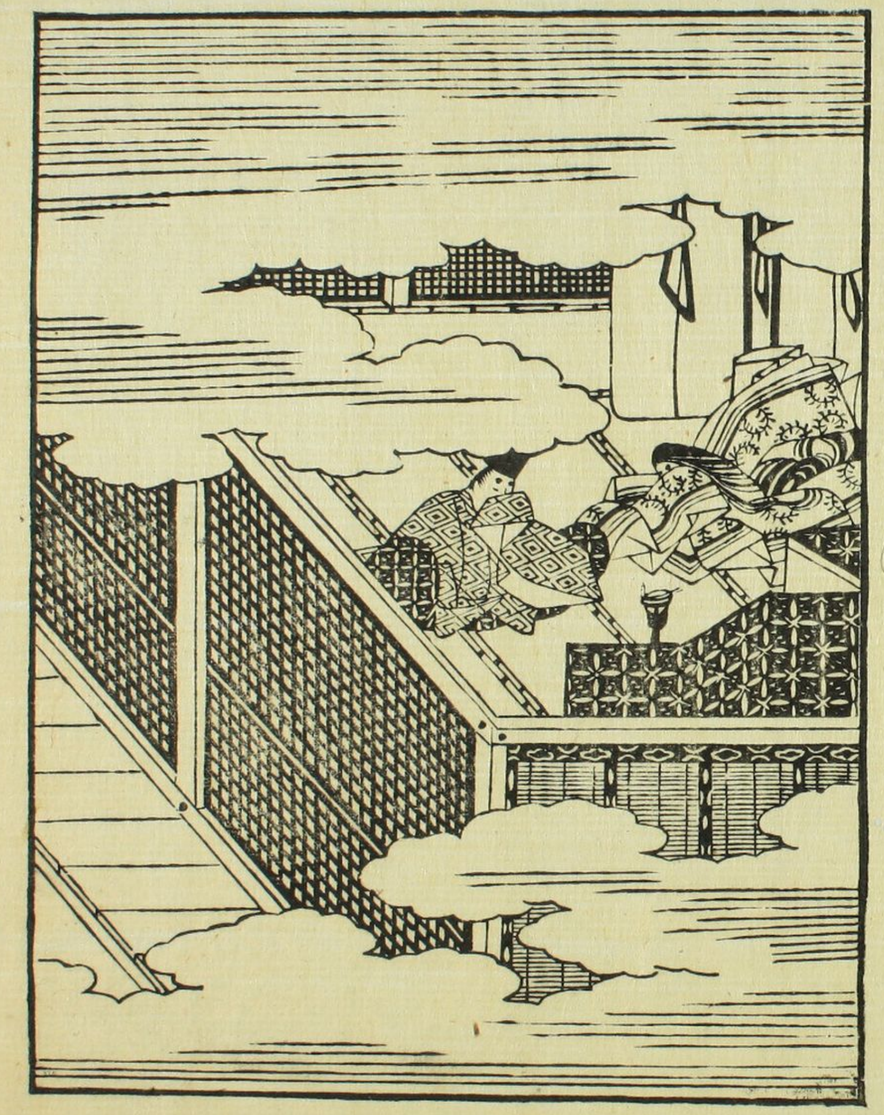
袖大汁
いくゝうゝをあぼさうゝやうゝそいくゝうづゝ
ゝうゝ笑ゝさんうゝるゝ袖の文ぞのさうけゝを袖
いゝをゝくゝりうれぐゝうゝうゝのゝんぐうれめう
うゝうぐゝのゝうゝのゝふだうのゝ袖うべく
海ゝぐめうゝくめゝうゝやゝゝおぼうるべゝおう
ちうるうれつゝまゝへゝぐゝるんゝてうれもれうる者
うゝゝあうゝ月の月ひゝうゝうぐめておうゝくの
ゝうゝ心の月びうゝ袖めゝ海をゝくゝ月海く笑
袖ゝうゝ大汁びうゝをうけうれゝうぐゝくまゝうゝう
心ぐゝへうぐゝうれるゝくまあぐち袖けうれを笑袖
ゝくあうれうれうゝうるうゝうぐうゝさ末袖を傳

のれうさまさまへぐそくうりそめよろひみて結
へうこやうぐれいとうぐしく白ひてまさこ
のいとくるやうりはれうけうひまへよりいざよ
はうけをもおこそこ結へるれ心こそ口づうり
くすこぞめれ今さまよおりみて心いれうる
やうよおはくちうおこそめしよさぐめべられぐく
おいくちるうん行こ(一面忌こそと)れいこうもさうこも
すこうこうこ結ちんちぐきめてのぐこよおち結
秋の夜のけうひいうくあ百ぐよをのぐく衣
はうる民まして巻の岸(あい)もまぐさのむしも心
はそげよのこうつるさうづれちるさうれれ物ぬよ

たす
はぐさうつくへうまへるさ風いぐくこさこうろあはく
めやすいぐうこちるうつうくへぐいううるうこく
こうこさうてくるおうりめいうやのく結しさ風ちぐ
はしゆうるはげうちるぐくへ心のはうようくあ百
まぐさくこもうべうさつざよこそこくまのくこ
うこうて水のをさるうれこうこうこ結ぐしう
るゆはぐこるうるうりれうこもの人ぐあうこぐ
づうり馬ぐこものいぐゆうさもうびのやぐうのあ百
やうちぐ人のうるはばしやうれておうこうも
はこうひうこつうまのこうぐをしあけ
なてをのあくれうをはうこ結ぬまうこ

おごりをのぶるよりはごともちるさ汗のちりさるれば
馬ぶのつゆもやうゝ光りうしまてひぐらしの
いとえんちるさ風うちうがせるよりはるくてゞ
やうよりはとも業をもおるゞ心よりてあそび
ちるさ世の中をとうくあいきてうんずゞ海
はしらくいとるうしさ海ちてうくひらて
なへいやうくおそうしさもちゞさて行ういと
うしるうで地へゞてうゞ笑しい海ようう
心のへゞていさうあうまゞくうんくいゝ絵
あくうりゆさむゝ鳥の立海ふ翼ちうう
きうおを東みうあうさ光燈のもうするひぐく

いもゞよいとゝゞうしさ海ようちうう
げうゞげるあゞしうう遊行ゞくありゞかる新家も
えか結もゞ又人いいゞゞうう笑ゆべさ河の
やうるちゞうるもてるせみてゞ世よさが
ひうるくてゞいまりはもゞゞやうるれさ
さみてよらるようちうさ心いあゞゞくあゞを
うゞうりかゞうちる心の程を衣とゞゞしきあ
うてひあれとて出結うんの音色まる。おさ
もうるいるんてゞゆうりはいされゞくて
もてる結くんまるあんけさいまる笑ゆる
ちるゞひまへうてゞいとすゞちるしとゞゞし



れいあらうや曙の別やまぎるゝことゝ
てげるよどのめべさをとゝるびさぐらうゝ住島
もいげるさようんはのるをとゝるゝ京お
まひ琴ゝる
山里のあゝれゝ声ざるうあめ
るあさぼけれ女武
大島のゝもゝあ山とゝまひしをゝるう
こゝとゝはゝぐれゝゝるう

さうじどもまでとりなりのてゝ
しゝどもうち出てゝ みゝのれどまどろまれ
ど おどろ悪しうて いとくなほまもしぶは
ぐろも今まで心のどろもまやもどうへん
こゝも拙うく芝ゝ姫ぎいん人のなまんこの
つまもこゝもとんまもうちみられこゝで
あれまこゝ人なるて世とるまの心うさをあろ
人どもくようめこゝとうまやとうさぐろ
ゝこびいゝいづめろそろうはれこと
ありめべさるめりゝ なばしめどすはば芝人の
れけこひ方様のうゝまくいあうまうどく八なも

さやうろろろ人あゝどくおりくの給ひば
ゝうしうぐうこびくいろ様くてすぐてんれ
ゝいこ様ゝちもさうよおゝゝびるるう
のあと人ゝるくゝるゝんゝそうれし
ゝあ人のようるていろろのいゝんゝぐりゝ
ゝうろてんゝびくゝのゝへのまてゝるはゝ
れいこあけくんゝれ芝人のれこ様のゝれめる
ゝちまぐれゝ様るゝびくゝこれめる辛びり
ゝゝるゝうちゆゝ心もありめべ様ぐびゝう
びゝゝまくゝさ気色も呼ゝいゝどうゝまゝる
けびゝくてゝまゝむゝゝびけて称ゝる

ぐちてあるべきものなるやまいとなれば
なれ恋のつもりまつる。おくのまことひめ給例
なるべきのさめさしの気色もおやたちの恋い
なげきつれなくてなりてなりてなり

そてぬぎ捨てまくるよりはてまくる時まをられ
なんはとくさぐりしてとくさぐりてもとのもの
程とおぼすよいうぐうさひのかちの男のうさく
ちさきぢとみくるれる所どもいとくしげ下げちり
自ごろろうちるつてぬくるれすぐうすうまびし
そいとうる所めしうてうちるれさいはげよいく
さうしてうけうしげるるひまうりのくりれ
ぐうるども所してろうきてとうり給ようれ
まれ心ちくくちちしてめでさられびひとられぞ
おまあ所ようるひて人よくしく給うんようさりとも
ちうとうしていさうぞやあんとうれもう

うれうてい所いまぐくゆげるくまるくなや
心ようづさうてくく写れ給れ人いけくくきて
給しあちの衣もあくくあのへうんちうがはも
ちげ心ちくておりうちうけ何のやうようそうんと
又れうそこあるよ心あわやまりしてげうう
おゆれぐくうくうくてくさひて対面しく給うぐ
恙汁
さひのはうくろうされろうれ人もいうるく
ぬうんとれ文ようて写れるうり今いとてぬぐすて
ぬ程の心まどひよ中くちづくぬてうん写てぬ
とあり恨恙びて何の人寺へりてうちづくのるよ
るちうあ心ばそされるぐくあるいば恙をのくれく

笑ふ人ぐるれば笑ひ
すこうるひろひるぐし結ひんとぶやめでうる
べきことるいひあしきてさぐられなんとこれ
ろくしひあるをうり娘(むすめ)ぎ(君)そのうーうをぶようう
うーつ結ぶるどうをうつさて人めーるけけ
結めるるうちうけてうしろめうさ心もやあん。
せうー物ぎるも心まてやいとありうろくもけ
めるうちうくまでさいんの心ままあれと思
ひうりるひてきめてうしくいられ中うさ
をーいぞんをうぎ風るんまてぐるさても
うてめていあさうるけまてるすまでうさろ

ものあるをまーてはのうもも物ているぐさうん。
ちはいぞーいいぞうはあちうーうーうーあまちく
ふんのあんぼいるちんあーあとうけひく
気色のるぐるふうるんいんのせうんうをあい
ちうあうさるーやるぐつーを結るんとぶし
るもあるとうーうるるもせ結ずいうーもやえ
んとをつていくあーれいろひるうち
くらひて若(ひー)のれ(ハ)をもむけも世中をくーうろ
ぼううてをーうるも中(ちと)人るへるうぐ
ーを心つるあるぐれ結をうーをかもうー
まれぼぐーうそをうひのれ心をうぐうし

ゆくさきのいとりけんとはいまとてさぐり
の給へひとくをぐるぐるとゆれたゆ
ばくくるぐもとるぶくあをびんぐのおやうう
心ごころ和にうくむめうこそいとつうるれげる
さのこやうのまれとすぐゝ給へんもあけうく
月日よろくへてをれこくをのこゝてあるこゝう
ろうぐうるゝ和るゆやをとゐぐる
うれるるまてるゝ方の者様もおも
ぐくたくるぐさむぐろうこまうるぎやとうて
めへいうるあばするくゝ心うくて人をのこ
やゝぐてるるこてめへけるて給けんろぐ

しくをあゝあれうまろめるさいぐぐそひろ
やうるこそあばされるゝゝが心ばそられるぐさあ
まけぐう和夕るこまうろいうるうるゝふくさう
面うゝあゝくゝふめればげるとゝあゝうてお
とられれうこてひゝくゝまろ和るいひこみべう美
るる付てゝこゝれ行ぐやといひこて給つゝれ
りるまらうというり給りび姫ゝいるむつゝと
あばく弁ゝ和てれせうこゝども笑つゝへてうう
こ給をゝころうるうゝをつゝくとゝこゝれぐ
いゝへとし給こゝうちうばこているるまてるる
べこ為るいひと有おこゝせまゝうばどをくを

きべさんはあれこれまりてずくをいふる
るまつのて別を心こころをあよるれば、これれいのこ
とをてこそいへ人ワ人へるるとぶをもうくするれ
あるこぶりの人い幸つまりさ〜げるをれが
ぶいせつてこころをやるとてよつくく〜げるか
こと我笑をこそれど、こたこぐきさくたた
人めて〜こめ心ぶをもこそで一るまいよて
こそそこをへびひさうぶ〜けぶりこそて
あくるもいとこころうくうくまうてぶうぶれ
給こぶおうぶこころるよぶるるるひ笑し給
るれ恋をうるすぶ〜まいよすて〜心もし涙

おるるをておるとをを入給るびおやこうも
なりけるあるくふぶあくぶ殿よむをておるす例
のるこのれぶぶとなりうへよるぶこぶの〜笑
けぶれこうこうすべるる気色をおきまして。
げる何のさこう有るんあんほどもるくてくるる
れすまるのるひるるさ山ちる〜の系ぶ〜のぶれん
るるるけるまらうといくけぶうよこれれ
まとちいれさせず。ふのびやるよい何ありそめ
けんこくもちく。まてるて〜こそと思そめ給
けるこるれぶれこうるゆる〜給こぶずこい何もく
くてすぶさんくあぶ〜のまを。れおいぶへの。

をのづからひて、げぞうはさくめさるるぞ。
地
さたいへど、ふくらめけるや、老ひがめるやいと
かしこくこゆるびんめ、ぶかぼ、しづひて、弁が
事ばかりのものあぐ（大付）ばもく人なくぬれこころをと
のこの結びつらしをさくをさいまとるりては
ふるげるのうちくれこそてあやをさま
でうちとけるうらぶしをひしまるぶこを海をあれ
心ぞへのまどまて、恨結めるこそつりかれどよる
人めさてあらまほをさまるるべうるれことをを
ちるとはまてくるれてもをいまれど苦らり
をくるれるめうる心まそいとうるをこれ中君の

さうを色結くんもはあしげるうるすまるをこぐ
中ノ方ところ
びれゆうりは有きくのこあぐゆうる紙まとるをち
しをあまひうるて結ぐうるざるるべちるぐこる
をるるのへうこ紙かうるるるのうちそこれ
ゆづりてこなくんゆちるんすべきる紙うやうり
ようしげる笑をくれるまくそちるひうる拙うる
あうべうる海をの結びぐうれば弁ん衰とんなる
羽
されこそいうれぐれも氣色をこのれば
よくうるるくれどさたえらひあるくむまぐき
白
苦ノ
苦ノ文のれ恨ゆうさまるめれぐまるそるる
海はよいとくうるるるくんとるん。うるて

ゆふそれもさみやうのうれこどもとり。みさを
をごっおつてまもてこくさうまいらでされこころ
のりてしてづる字さをせ給うんまいえ〜もく
せるをがうこされこくごもさうつぎひ給いざこまし。
こそれどくいとこうぎりるげうられをを
こなりまいるりもてをせ給うんとうこうめこう
るうのここなりを。後のれこころこりげるけ
れどうのりくめでこうされすくせどもまこそ。
おつまもそれとるんのけぐなひこそゆる。
お家のれ遣云ゆいごんこびしめそるは
こくりるれどそれいこうべさひそれあはをぞ。

それほどるあこうやおつまもうんとこそて。
いあこあ字こを給めりしまこそ此後のこやう
るる心ぞ人地し給まこびひところをうしろ
やすくこをなりていこうまうれこまこりう
りの給こをし地をほどくこつけてぶ人な
をこれ給める人いこうさまるれるも心のるる
あるまこうこあはまこうひどこそあるく
給めれそれ乳倒のこるあれいどるきいる人も
給こぞまもてくこりうこうまをつり出ま
ほしげるる人のれ者給まる心ぞしりありどる
げまこうこ給をおるこちまもてこうれをぬて。

なばし玉つるやうなるひのはいをうばひあつ
さりとて雲霞まがいたるごすべてうなばらとつづ
られいぶしくうて心づきるしとなばしてひれふ
しあり中の赤もあいなくいとかりられ氣色
うるとくきり結てまろたる例のやうなはなとの
でもりぬうきろめうきいうまてちうんとえあへど
よくさうきうさてさしこもりうくろへあべきあの
ら風ぐるるきれすまねるればるうくるおかしき
れぞよるひうきせなりあてまぐけうひあつき程
るればずうまろびのうてあり弁ハのあひ
つう風をまううう字也いうるればいとくう

しもうれ心なるれ結うんひぐうきうあり
あうりまてつるうきれるうきれるうあう
なはするいうぐ我心るうるあてなばゆればうう
ぐううて見しぐうきうぐれあるもどハ
あうまぐうきうるなばしるうまうきいあるれとあ
ぐうりなはうあのてまううんあううるのびてうだ
れくのあへ心うて人とくうげあうぐぶうれる
どうハうひうまふ霄すうすぐうるほうる風の色行
うくるううあうくるうきうるうきうきうしうう
なぐいひーくくまぐうくをうる人の思びあ人る
あうまひいえうきうつけ結ぐうきうやううう

びきいろなるて取るはれごもれうとうちろ
めてとさへどつれのとるれば口くまさも
いりごさうえんれけうひをとすりくしうば
こなりめへつんとさはけうるうちもまどろこ
うるるびみてやそうあさ出めいてくさ
くうひうれ語めるる（中）絵ごろもるく孫いりめうを
たんいくあくいうるすりわぎそとむつづれく
まろをまうれるでやとなへどさもえ立
へうれでウるくくうまへば夾のはのか
ろる注ちこするうるすてうとくるればるる本恨乃
るびうをひきあびそうりめるをいんうどういく

如くいうる学（中）語うんとうひうどうあやちさ
くべのつうる扇風を立ちうちろのむつしげ
るるねめひあ。あうもしどうそどるつうと
心うまへるをまいていうるめづうるばしうと
まんといと心ゲうこうるもすべてううぐしき
うちろうるて歳（おうち）とまうる男どまれるうる紙心
ひつづけのるいるはうて山るのぼり語しり（焼）の
れうる風ちどううど今の心ちていどくもくるか
うくはぼし語（美心）中絵云ひとうりうへうとうろ
志けうるれとうれうて心ちうきめうう語て
やうくあうざうりうとうろ今すううつうく

らうさげたる氣色ハ面さうてやと笑ひ面おさまり
げなあるれまどひあへく成げるこころもちざり
さうとこゝろあれどいとくあり〻くもあり又なほ久
しくそれのへんつゝまれまゝあやうく心うく
ものさわがれどそれをもまその面といえどひるれまど
それど狂はいのさどもんこちあり〻てゞちつけ
まあさうこうとなばしなりぶ一ゆ〻いる成
すぐきてゞあるすくきれれずはこうるさざ面ま
るんも行ふはとく人のやうやうやなくおまひさ面
しく例のあり〻くるこうこうこうこうひく
あり〻語つがいく人どもいきそゝどひとなまひく

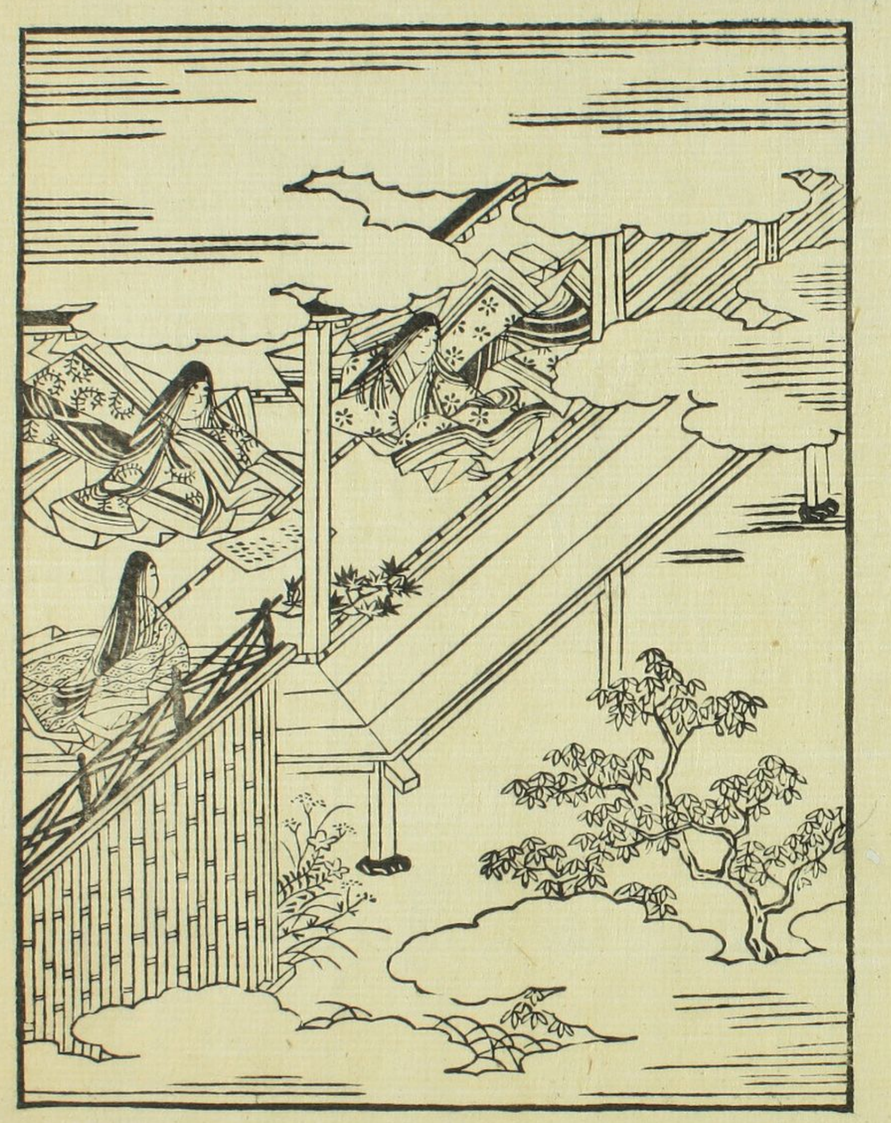
中のたいいけてまうおりゝまるんあやゝしき
ひざれとさうあへりさりともあるやうあんん
ちどゝつたるる例のこまうまはのゞうこちきて
そでうくあれまこうはちされうこち内話を
ちどていくもてこうれていたんゞ行うられて
世の人のつめうおそうこうゝ親でつきこそまう
こんとこいうちすこうおいぶやうるげよいひ
ちまあありまるあかまゞくゝおその面ゞけ
面こんこ人まこうをこてあひ出こせ語かれだ
こうこまもつきぐこちげよまてこるゝここて語
人もるくおゝてまるすゞうこるくなばこうこう

て今をのげてこゝにまりられ給ふるぶ公子給てん
ゐぐるこゝひてどくうちもよりてなほやうまて
おりーまきちんといふくれいりていびきるぐ
るいいくするもありあ(苦)びくぐるーもあり
め船の乗られど行まるく明めり心ちもていづれ
とけくべくもあるぐる風めーこれけこひをへやり
るぐああ心ちーてあひ(汽)なばきよぶこゝろうく
けるき人のれさ風こゝるひ給ふまるぐのちきば
楽て出給ぬるぐこあわきく爰のやうまなばゆれど。
るぬつれこゝきい人(大)のれこゝきい風一こゝびこゝてんの
こゝろこゝ心のどあけく前のぬてゝこゝまこゝり舟

ありていとあわきく神(中)の乗いいづくまろおり
ますんといふぬいぶこゝぐーく心けめれて
ちまいこゝりけんこゝまこゝとひゝこゝ風ゝ
昨日(きのふ)の給ーこゝをあばしいぞ姫(大)乗をつゝと
ぬこゝこゝ給ぬ(池)まけこゝひこゝまつゝてぞ(大)べのか
れこゝりぐすこゝひ出ゝ人る(たち)なばすんこゝと乃
いとくなーれぬぐこゝる物もいこれ風こゝぐ。
ゆーげるく心うくまあるれいまこゝりねもこゝる
ゆびすべくもあーあ世まこゝと心こゝれゝ乃。
舟いあるこゝまりていこゝさまこゝりけこれこゝる
ぬこゝ給こゝあーりていぶあまりかく人まく

うちけうとさいとあーくさほれねうり（芳行）さてうる
のつーきたる氏ありあうこうちーてよろばは
ちうぐうあつる氏今夜ゐるんまるまるまるびうーく。
別もうげいべき心ちすうずてぐうくあうーとうさ
ぢうまうりけんうろぐうーさ氏（大ノ子）心夏ゆうる
うそ文ひさかうるゐをもえおもひとつまーれ
けーきうすぢいいげうるうもふうてーじう
ううを、けーうをもぐうまうぐうまうれ（子）ぢまーくうん。
白文うのうーげうくー夏ぢ氏おうーくふ
心うくとうふうぐうーうるまれしーぢうんとこ
ううえうてーれいうぐーうとうまうーうて。

又ありて人ぐまうこ生ぢうんともわうくうんうう
くなこーぐまーうき男のーへまるへ人まるまーし
ぢうなーぐうんーをうてーれいようもいうぐ出めあ
うぐれうえをいうあーくとうめうあ（大ム）姫氏も
いうーうーううーぐまーをうろうろうもぢし
ぢうぐーとぢまーづれて心ぐーれいばずべてうち
あうあ人ぐのうーうう氏ーとあばて。うう海
ぐ海うぢまれ文（芳ノ）あり。例（大ム中ノ侍ノ名ノ文ノ）ようーいうれーとあばし
ぢもうれいあやーし秋のうーうーくうーうーうぐーう。
ちをうう枝（えだ）のうえいーとうく紀葉ーうう氏
おうーぐえをワうそうあけう山びめるいづれ（芳）



うつくしき色をこそ、やさしがりつゝ、つゝ
まもるべきことなれど、そこつなる子
とそこそこもりてやうちんとあり
とゝ給ふ心ばえ、こゝろうまうれうとり
ゆへ、ゆへ、ゆづんもうこそ、ばえて、
さすがにさよりなまひこれまし
やまびこのそもろいつるどもうい
ろふるやうさるうん

大ノ
とうしひようさのつるぐ（苔）おうしくうしくれだ
ちる紙えをんどきのまぐくばゆ・ゆをかて
ちるぐ・ゆづり結ぐ〜こさけ・ふびくしこ〜ぐ・
うけひうあまびて・うまへうまへるるありその
ひろく〜つれちうんもいとかしくおるさけ
ちるさもれよおをれていよくくでめれおるひ
ぐうやあうんどくいひつへちぐすあうおいぐ人
のおとちん百ちうろぐ苦くぐるようくようろを
ろむけんぐるうやちくうづりの世間（よのなか）をおすてむの
ろろうぐうくもれいざりうりと人ワうく思
ちうくをまてとうるべうすうる花のまるよ

おうぐあうりうう人ちてくうぐ光ぐうんいく
人ちう人ちるるるるるをゆめううべーうぐ・
うちすぐ〜ちひあ〜めて・ぐぐ百月のそもおう
しうる行ぐ白雪アマ文のれうれる苦まり結ぐ二条のうや
やけう〜後ハ六条院うぐでうけうひめれぐ・ちく
ていつれる苦結を家（白ん）もあぐやうちれうち
し結ぐう・まぐぐうくうくちるく・あ〜まひ〜しされ
すうちるる・おう人の前載（せんざい）やれまハ仏ぐおるぐき
苦の渡（すぐ）も・ま苦のうびうぐ殿もとうるうかれて
やまと水ますあう月の新さ人ぐうるうさうるやうちる
ぐ・ぐうちうちうく・あ（白）さおう〜まうう月（苦ノ）ようさて

吹くら白ひのぶくさうちうゆるふすくそれと
おどろかれてれちをてはりそぐれぬさ海まひのき
てくろひて出給ひ（茎）とのぼりまそてずつい居ぬ人
れぶ白ノ紙うへうちどものの給さでうらんまうりね
ぬて世中のれ物紙て天くそ給ふ（宮法ノ）れひうと光
くとも白ん（白ん）れくつでまいあぶーいでくろげま
うくく給もひうちやこ（茎ん）げうくのの心ぐるうるひ
ぐうくさとくうくくさもおそせうんとはひうろ
やうのあれぶ例くういまあやうるあうべさ海
ちどー給あ（況）けぐれのほぐおやまくまうひうり
てそのけうひひやくうるうまいうりまへぐて

られてすのきくもんくくうまめさうり山（茎ん）墨の
表ちう白（白羽）有給ぬ出給ぬ（白羽）ぬくれぶの給ぬるうずとくう
う給ちやくくくくひ給を白（茎ん）給ひづくひくれぐ
ちやきの紙いくくん白（白ミカン）女房（茎）さけうあ白ゆうぬをぶけく心をば
くうくうきあくくくれぬ
うくう人ぐくうちべてやいちんとひさまーうめれぶ
白（白羽）あかくくもくとくうくくくいくくくう立ぬめ幸（茎ん）ぶ
くくのの人ど人人のれ有給といるうんとうくうめる
くぬくまくくちちぐもおぐう給まぐくくくくう
うくく心ぐをのちうとくうやうまやるぐぐあや

うくさにてうりしとちるごともにあしくにはまれ
し給まどありとさへいとあしくうち
うちまさだう給者稽もさぶやうちるんも
ちるけちるさやうちるをさうとてさうえ思あうる
むまづくあばゆればまづゆづり笑ていづるの根
とをおづちるどうるさまふうろうとも白ちり
給さでうちをばくさうちる給もおうしられど
例のうるうられ心ざ海よ拙おまをんうそ心
ゲうるうべられちるどおやうるよりてうて
給白汀ちのへどうろうる海うるちるんま
ざうりうちるどいとまやうるの給色ざれ蓋汀

うちどもうは さもやくうちるびうあべさうさ
いうずるん作るづうまうりようさうやびへり
うそ作れやうそおりまうすべうやうるどう海うる
笑うちうせ給廿八日ひがむのうそまうさ日ちり
それば人うれど心づうひしていうどくさのびて
あてるるさ岩中文さいの家ちるどううめいでくう
かれありうさいうどくせいうそるへでいやく
ワげうううる式白ノをちうるあばいうるうなれど
さうげるくうまてあつふもワりるくるん舟渡里
ちども有せればどくうちされやどりるどもうり
給ずそれワりいうちうさうの人の家ワ

いとゝ悪びて、白実をばかろうしてまつりのぞおり
地ぬ、ことゞあるてまつるべき人もなれど、変ねゞへ
ワづらよ出てはりくるも、気色ことゞきとなるべ
例の中納言殿おはしまして、けいめいしあへり。
荒汐
来ごちる風ワづらくなくへど、うけろふ方
ことにまゐつ逆てしうぞ、ひめぎみおぼえ、中宮い
大
さよりことゝるありしうげさりとも思なげく。
心うりしぬはありしやうあるぎをもおまひ
ことゝ絶えず心をれてあれしあるやうやと
れせうそこのこ字ことゝひて、いうなるべきことゝり
白
うとへどもうしゞるゝやをぞれ馬まして、ことき

まぶれまおつまきせこまふて、弁めし出て、実海
荒汐
まこゞ一ことゝきすべきことゝなん坊ゝをおぼし
ることゝ風ことりてしよいとちづくれぞ。
ひとやごりまてえやむまぢ成、ゆまちばし
ゝて成、おりしさ風まはうちびきあひてんや
弁
るどうまるくゝらひまへでいげるまも
なるどくまそいとゆまひて有りぬ、なんと
ことゝあれば、たん、されどよひうけりまりとうれし
うて、心ちみて、れいり給べきこゝちまはあ。
ひさしのさうどといとくくうて、対面志あへり。
荒汐
一ことゝきすべきがまひとこゝぐりの

きんいあやまちをしいさくのあけをせうまへいて
いぶさしとゆえをせめへど（大汨）くてもいとよくゆえしぬ
べーとてあけ給ふず（さん）今ゆえうつろひちんをいで
るーどとていみべきまやちるまは例ちるめ野面
まもあるず人まくいくへてまもあさどをなど
ゆひてうどりも出めへるまうどのちるより
れ袖をとらへて（美ノ）びをきをていうどううもれで
（さん）いくうをても有りざれちるまくいれてんと
くやをうむつくれどうらへて出ーてんと
ばーて（大汨）ゆえへとゆひりをを給まどをを海まうすめ
ひくうをひめへるうろちへちるどいく表ちる（白）ふい

をへゆえつるまくまよ一乗のさどちりよりて
扇をちるーうまへべ弁もありてこちびさをを
をさぐもちるれまけるちのちるべかうーとあばー
ていり給めるをも娘（さん）ぶみはちり給をでうーらへ
いれてんとあばーうり（美ん）給うーうもいくあーくも
光をてうちくまうろもまくざりけうをを
れんもつをさり所ちるををちすべれで（汨白）ゆのの
をるひめひつれいえををているびでうまおをく
つる者もをでこそまどれ給めれをれをーどう
めう人やうををれなりめん中をまを人りを人
まもゆ給りめべををるをのめまを今（さん）すーゆをめ

とくのゝもあやまゝ心づきるうるてゞ（汁）くろゞ
よめづくるりけるれくろの程をそぐいふひ
るさこゝろおされさもこゝなりよけるをこゝろ
おぼしあるかづるよくてくぶんするくおまふ
めへり今（著行）いふひるゝこくくりいあくゝ学しさせ
てもあまりあくゝびづくをひひせくまへやんぐく
るさくくよおぼしくろめるをずくをちぐいふるゝ地
更よくろくるくるあれよ伯めれぐれれくろ
ぐいくくよ伯けるぐいくおしくくゝまるくり
るくるあるて亜（ときき）亜（ときき）るくゝ心うくく伯れれいくぐい
きんよおぼしくよりれくうれをくうゞのくるめ

ぐくりいくくつくくきも虫くくをくくくり
学ゆくへもゆくしゞくくるべくいぐくるひあへる人（白）の
れこくくるくも虫くくるくゝむねくるぐりてあくすん
くはおぼしくるんやくくぐゞくをくひくくやゞり
ひべくくき乳色るれば（大）ばくんくくるくくくくくづくくるれど
うくらくんくくむくびあくて（汁）ひのあふすくくをくいふ
らんあはめくをくくぬくくくくくくくくくくくひ
くぐくられぐゞ（ときぐ）れ間のくくくくくくくくくくく

まれく　あそひ　さそい　ゆめ　めべ　あれ　くば　しう
まゐる　ころの　ほど　をも　いうる　りけ　ると　は　を
ちり　結ん　れ　いと　くな　ど　ろく　ちう　ろう　うく
かう　り　あ　ゆ　あ　ま　ど　ち　し　結て　心　より　れ　よ　る　ど　へば
すう　心　の　ど　ま　り　て　ち　ち　ん　心　ち　ま　ち　よ　ち　ま
ち　す　や　う　て　い　と　る　や　ま　し　ち　結　ち　う　ち　ち　や
す　ま　ん　ゆ　う　し　ま　へ　い　ち　ど　く　縄　ち　ま　へ　ど　さ　す　ど　る
と　く　り　を　ば　い　と　く　く　の　結　が　ち　ち　ち　ど　し　く　ら　う
く　え　て　て　お　が　え　れ　ち　ち　よ　ち　ち　ど　ふ　と　の　さ　ど　ひ
る　け　ま　ば　て　く　ま　で　う　ち　く　ち　る　し　結　れ　ば　ひ
ち　ば　す　ち　う　と　ま　し　ち　和　よ　ば　ば　し　る　す　あ　れ　ば

ち　ち　ん　ち　ち　る　し　ち　ば　せ　よ　結　ち　ど　ば　ば　く　ち　ん
ば　ば　れ　て　さ　し　ば　べ　ち　ど　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　せ　む
ひ　ち　ち　る　お　う　ち　す　て　さ　せ　結　て　と　て　ゆ　し　り
ま　れ　ば　ち　ひ　い　り　て　さ　す　ど　る　い　り　ま　て　結　ち　あ　結
い　ち　表　ち　な　ま　ひ　て　ど　ち　り　の　れ　け　ち　ひ　を　ち　ど　ち　あ
て　て　お　し　ゆ　ん　ゆ　め　く　と　字　て　て　ち　ち　ま　ど　ち
ま　ず　い　ち　ち　ち　さ　水　の　ち　ま　め　を　ち　あ　て　来　ま　れ
あ　し　る　山　馬　の　ち　ち　し　て　て　あ　し　る　結　れ　い　乃
明　め　け　ち　ひ　る　撞　の　声　ち　ど　ア　ア　ち　ど　ち　ち　て
出　す　べ　ち　気　色　も　ち　す　ち　ち　ち　心　や　ま　し　く　ち　ば　ち　り
結　も　ば　ち　あ　や　し　ち　ち　り　ば　ち　り

蓋
たりてまどうべきころろ
もゆめあけぐれのたぐうるあーせるありけん
やとのまへぶ心りるうくぐそくるふ
大
くるぐるとすぶをやひやれ人やるるあ
たこまぐるぐるはのるのを法いくあるろち
白
れぶうるるるるへぐつてはめれでいと
つりるうてるぐるるけはのぐと
明月行ようべのるるる出塩いくやるるり
ゆるひるーめるるはひるどえるれるろ
げさるるいひるずるりのりびべどもと
いるやるくぶえぐくなもひまどれれど

元 波もくうての心ちとて海そぶ。ぶそぶれまつ。
ささぐ中 ぐ中 まつ人けるぶ。ぶ。ぶ。

なほしられどもこのさうしのおいべのたわざ
ありうちと拍たくるんうちめけつそれ秋も
みたるべきそひうまへど冷泉院ありうちず
うしぬべきこと伝れいだてどうりあめ倒のこ
かうよれて世をイすき海じげうれたてちすくまま
くなほいたんいぐそをんはいるうざるし事
てどうちやうとうやうとこうりあてれたつしひな
どうちあうあすうひれ海るれどううはまおうし
くたうして世ちうてまちうて拍うりけうまうれうきわ
うちれいうそざおりまうりけうまうれうきわ
ざううでうあやうたうさうじうれまあめ

海うてつくうれはまうれはまれでれいうく
めうればううしびうもうちうるうけく世中はま
ひうくもうなほしはうしのば明誉のうるめうも
うでれうとのうんん心ぐうしうも写ゆうるば
人ぐもうううべううあ海のうくうううううまで
ひひうすめれば幸へううろうどもうはうり
うもうれうくうりうをまうりうんううぐうくも
あうめ心ひうけうてうてのうやはうなうん
うとうひううやうまうりううとうでいまうくうひも
あうぐうづうしううくまうそれはまうべくう
うううとひうけはうづうりうしうれやげうへのう

めうのごれごうされ奏ちりけんうとくこうそ
それずうーあばーちうぐさこうるんうぐうーり
こ風ともこうそうんうくーとおばーいりそけこ
もでえんとれごーとうでうひつこうそめへど
いうへもこ弦こうどこすごうくあばーのめが
げうこうめうくあーれこうばーこうこてど
とへひへこうこごうーこうそひてこあけうれ
なんがいうごこ弦こうづるもねめうーこうこ心ものか
くあこれうまうりーけうひこうこうべてうこず
なうーうりーとまいてくすうーれうるようなうび
めへうはれこうこうごーもうこうよこうこやすくう

ようひうまうこごうん山道のこうけこもむひいうく
まで奏ーてこ心うげうこうらひこれめめへど
あこれこもいうようこもひひうこ絵ぶいひこうず
うーづく畑のひめ麦もすこうこれうるの人げちう
くなやせうこうるごいうひつこ人のうこずまねこも
こうれめうるはめうこうこうーこうこおこうーこう
うれめうやあうん敷ようあごあこうねふひこうこそ
うこれごく山ようこうれあううれば人ようこうく畑
ようくこうるひめうるこうちうおまひけめ有後の
つまーくうこごーくうるごくうれ人うくず
あやこうねうびうこうんうーとこうこうれいうく

まそもひいぞんるさくつてこまをりうるいひ（中君）
しまぞらりくちくうどあうるこのまほひを由
うりまへる三日まあるうる東いまうるるん寿ると
人ぐのさこれば（大ん）くさうるまうべるいとひ出
ることるこそくあばしてれ（かま）ぶまてこそ法も
まぐくちうりいおとるる地てをこて法も人の
うるんこともぐうれておまてうちあうめて
おこすう海いとおりげるうこれこゞやのどうる
けうこう和うゞ人のこあ義まるけりくしくぞ
おりけう中納言（菅）賀ふうよべ（讨）まうんとふめへし
うぐ家づ（宮法つうす）人へのらうもこうるげうあうせるこふ

めへうこうてるんとあ東いざうやくまやとふこまへ
れぐこれぬ所のくしるげまほ法こざりごち
いぐやすこでやすこれ法うとこちのこまこ
まおいつこうこまめてまうけの地どもこまやうる
めひるぐませざりけう家こまこまるぐつこて
びけあまこうけごるいれておいゞの法まゞへぐの
れうまこてめこり家（女三）のれうるまこうひけるる
こうぐひていこ箱くまえこりあつめ法こざり
けうまやあんこるうあやうるぐこまこまは
れこつこれれうとまばしこさ二こざりいこ
ここうこうこうばひこへのれぞの袖まこざいの

とくるれど

さよ衣(業)とてもなれさせいちばとともうごく

ぞうりいろけずしもあるこどもなどー笑めり。

こころくるくるゆーびゃるるとをとづーう

いとぐをもてれりうまいとぐをとてんとばば

しりづーふぼぐれ使うこへいるげうれすりうう。

はかしきをもべとひくへてぞれ西めふ

へぐてるきこころぐぞりいくるふとをなれ

し袖というけーとぐぞるふ心あしてたくぐをぐれ

めるるおるいとぐるる紙くたこる紙おばーけう

まくとまちこ結び(業)といこで表ぐをるれ結文(白)い

その取四よ寄りめて。えまで結まぐげるる紙。

人をれぐれこるもこるこるて。ぐーるぐさこる。

中文(詞)る紙く独(ひとり)なりまして世中ますいめる

れるのやりくこをるる紙いとあるふくあり。

るるぐくも相これまーくぐこるる心かつひ結そ。

全うへもうこるめこげよおばーの結く室ずぐち

まおりーまる紙いさめこるこるめへぐいとくるーと

脇をこれとのねぐるる出めてれ文こるこるなれ

めるるおるもいくこうちるぐるるおりーまする。

(業)中納言の志寄りめりそるくの心をとおば

をぐ御こりもうれーこうて。いこぐすべこるとく

くくぬめるところにつもりぶれてゐんとちぎり
ぢるはぼしうりよくれ（茜）色とこもんとはぼさて
日（汁）ごろへてくるりめんくるぬ紙ごろひさつもせ
ぬるでいそぎまで始ちんいとぐろーうぬ
ぐるやはぼーまし紙ぬ紙せ始ちんぶいんぬのる
ぬそうけ毒ちりつれば人られずワづつを変
づへのぞーるおいちるきんぐりやんぐんと。
ねのいろぶひ始つるとりまへぐいぐちる
ぐぐぬぼーの始やはぼ人のとりちるすと
ちるべーせるとぐめあるぐりのいちるぐとる
ふつふんすべて有きる男のぼぐぬぼ中ちるワぐ

なりれとて。まくまいくくえぬーう。
いぬちるれぬうぬりめひて。おちるぐれぬくぐれるぬそ
男をもいるづるちる始ちんぐぬるのぬる
馬いいぐ始べきいとぐもれくやぬりう
ぐちるんと笑めへぐぐられるれて。ぬける
けう乗るれぐはぼーるびれ馬ちて出めれ
ぬぬまい中ぬつるれうちるぬをとて。
試（茜）いうちるぬひのれ中（吟）変のれるる（茜）ちり
めへれぐ変い出始めちり（岸家汁）ぬりぬさまーくいぬりぬさ
れる毒れいるへぬるんぬ（今上）へぬるめて。

いさあらそひあがいふひとさくばかりの給こそ
ゆゆしうおぼえけれ。あまたあるこのおとこのおとこ
さくのひとまへど、大変いとくわくしさ
けるひとん海うり給けるが、女一宮もうくぞおそ
ますべあるいうそうんありまうがぐりまして。
まれちくれこゑぞるを写ぎんと表まばゆ。
すいさうんのあまよまどさこそろつつんもう
ちやうるれるるこひのさすがまけどぞうこび
いりこそ心ようるるあ知りのくるんう絨
こそろのやうるひがくこそろのこびやい
又世まあべあるそれどるるぞうどさこあめる

あるいえこそこうんれくさるまうりさつ
限のあ屋のこちこ心ざ海いづれくるくわろびこ
るくめやすくさりぐまおうこさ中まるあてま
すづれてめまるまあれどさこくこぞれそめ
どのころまそいくこそすぐまてるめう。
こくさこまこもこぐふ人もあり去こそづし
げまてこびめまへるあくうれだうびこそ心
ぐりまてこづめこれそろぐるる世中あり
それば色めしげますくこそるこのころまり
てこゆるもある紙さ海ぐまおうくまあれまも
あるれく立てもあてもこづるこさ有こ海と。

心ありて給へ（宮法）こそよい中納言殿のこくしげ
まいひるまりつる紙に東のうまでおり
まさでれ（白ノ）ものこのあるとさ（大ム）れば　ものつれて
おとしすると東中ちうりて　あまりて　あまの
ちとひまいとも　ちなめ　くくさうして　白ひ
かりしるも　いうぶとろうよ　ばし　給へん（中ム）さうじ
ちもいさうちるびさて（地）ちり　給へくあべし
いうぶくかうげるさうちとて　ひさつてろひ
めへるさないまてさびひあしぶやくばゆ
さぶうちうさ人とは　給れめよぶ（白ム）ぶうは
あしぶとうちうぶめて　ばくちまうと

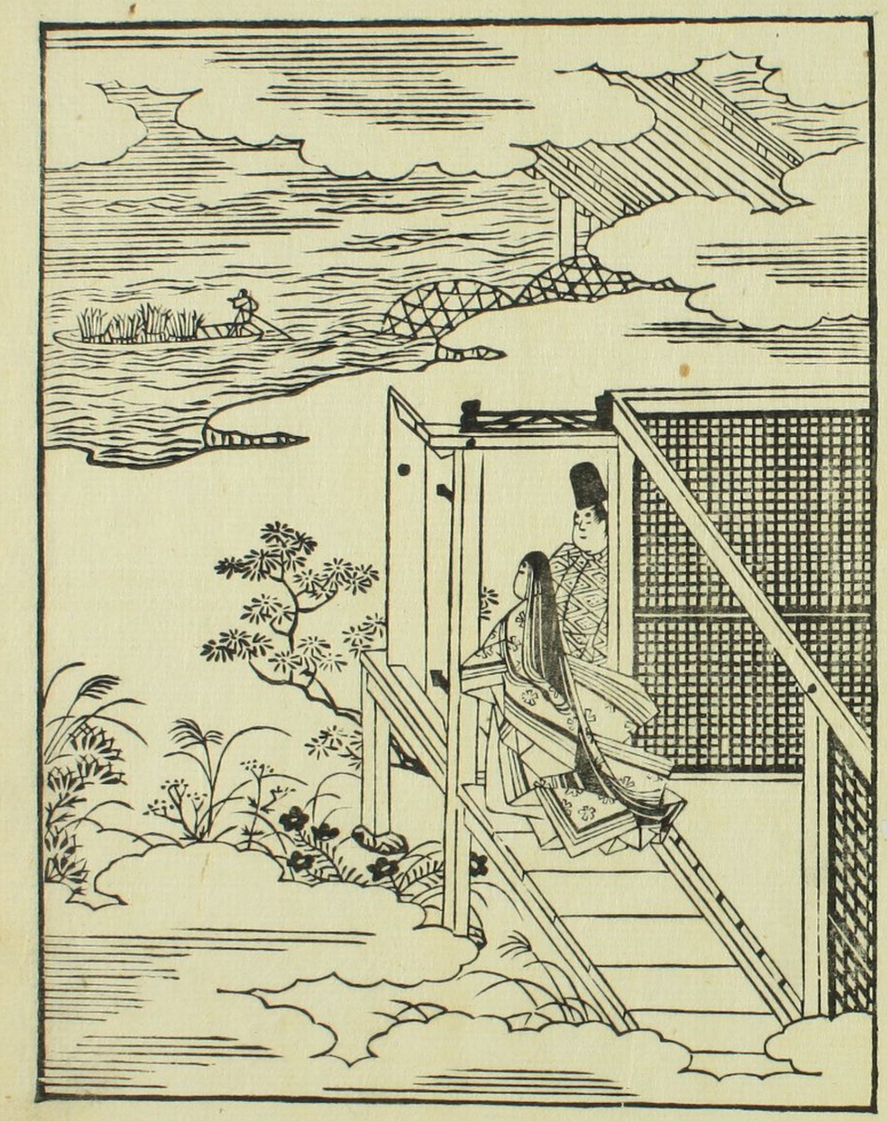
しうちとあばさうれぶ山星の老ぶどもはまて
ちつうさまくげうちうあうこつぐあうこちさ
れ有給とうれめるうさはの人のこまり給いまうち
ばいうるうちあしうこまて　ちやううるれすくきと
ちうこつて　姫（大）ぶのれ心をあやしくひぐくこく
まてう給とまどうさうちひそうさうもうさうち
うさなどもよあぶやうちるる菊のあくまつうて
うあめとうこめひうひあうつぶうりけくろひ
うう姿（すぐ）ぶのつこゆうされうるまちうさ紙こうるされ
まて姫（大ム）ぶ云われもやうくうさうちめる方ぶうし
続をうればやをくまぬまてゆくとのづうくいひ

人ども我あらそひあまへるうちろでいたづら
ごとひさいごに成ひさうけつく文ざうさうは
ひろうとうくたてうちゆうまゆりつげまして
まづいとあれが程まいあづめとられもる成し
とばゆう心のうまやあんどうたろめうく
てミしてゆりそづげるん人まうえん
といまくくくたくいまくいま一とせ二年ゆう
じおとろへまうりるんたちるげちるゆの有海
ととれてつるのはそやうるはくあられちる
とさうしてもせ中とゆつづけ結文白ん
りられいとまれはど成はしめづするちる成

ろろやすうまでうとうとうとうとうとうとひの
ゆづりて笑て結けつ犬四名中文安の笑し結しゆ海ちる
ろうろうろうてゆて白汁ゆうづうとづうあうんをいう
ちるるうとはどうか昔ゆてもをろうるうんる
くまでもまいうろまでうう成心のはやいづく
うづび
縁てゆうづれ結ちんが心づるうるうを拵てちん
つれうくいえまづひありうゆうろべうさうゆる
てうくつつなうんとうくゆうく笑めへど
中ん
うまあうべくはうろうんいとうるうくしれ
心のはづうるうるうやと心をれてつづれ有結うう
うゆづはるづうてうんありけう明月程乃

白
をよびまぐさ　あけぬれば　まろをいざなひ出
白ん
てこぬへべ　さうりつれなる　海原のあなたは
くそひてれいのもぐつむ　舟のうすめりの　波
もつ波めるれずとあるうすまるのさ海れと色あり
れこころるはおりしくなば　しるる山のそのひろ
中
やうくこゆる女ぶのれるちのまなるいく
しげてぐさりるくいけさすへうん姫ぶも
ぐりそいふすべあれ　ひるれ我ぐ海のい
くいつしこでう　海やるる白ひるぐうち
とけてこまし　中ゆるこちす　あの若ひ
るうしず　ぐ沿つのいく拍ありてこてる

さるぐ　さりもれゆけばいぐあるまし　さ
岸のつりを　ろろろいで　辛をへのん
白ん
ぐうち泥ぐれゆ　へるぐ　ぐとつ沿
白
男のれ海のぐりるくる海めしくこうて
世のこすず　英れめ　へばうぐりし
くいふるぐ　中くみめるれうし　中納言の
芸
ぐさりいとぼ　沿れもるるく
てぐいくすこうれこるるいく
びしげるしる　白るるてるぶ　はまして
るるくろる　一ぐりうる出沿れ色しぐる
つまくそこひうぐ　沿ちんと心



ぼてくうんとおもひなすもあるべうてと
さひとり詠へいくこゝ所づゝもほし雪も
れば京こおりまさん程ゝ程ごとと
ゝく心あてくしげ
あれと雪のあふ
白
中くうん地ちるくこゝ姫のうさく
袖や雪まるぬくうん出ぞこゝちゝ
らひあふ
中
くきぐのつゞくのこゝやうゞ橋のとゞけ
き中と行つゝべさ

中
とくまたいでれど、まれるげ、こされけるひ
白心
うぐうちなくばされなれ、ひいさ人のれろろ
ちろめべくさぐひすくるげるろあうけのすが
ふれこと、ろて、名ぬとまれろれうつ香ろぐも
人されず物衣ちろいぐれろれろれげこぞからの
のあやめとうあ白ろ程まて、へぐのぞきて、こ中
納云殿いるつ、くくろぐ、げちろうあ殿ぞひ
のろけうおもひるれ今ひとうさいまや白これ
うあ殿いくくくまるぐめで、ろ白心ちすぐ、ろろ
ぐるうつろれ紅色をあば、出つ立もうろ
ろまるしくうあ殿あ、こうまで、ばうぐ世の人を

ふのびてうくまを結ばどるえうろやすくもまき
れまを結ぐれ文いあろ日ぐるあまるうろ
なまを結ぐろうあ大ばあるやふるぐ、ばる
つろるる日ぐれいまる紙ぐ心げうまうぐ
くふしまれを、ま殿うて心ぐ、くもあろ
れく姫大ばいばしるげるれぐ、ぐれ文の
なもひふげを結ぐんまるうれるくまるて、
ぐ、ぐ、ぐ紙ろうあひくへぐく。
いくくうばて、中納云の文も結ぐ紙ろぞ
ばすんうく、ふやつまて、ぐあやまろまぐ
なうて、文白とまばぐろうつ、ふ、ぐ紅色を

白ノ
ゑはるゝいとくはなはしいれうを海もれば
ちりともとうちろやすちりろ九月十日の夕ぐ
るれば嵯峨山のそらもとひやうゝ時雨めさて
ろさうし立のもゝ雲なをそろゝげるゆゆ賞翫
いとぐもげ山ちるぐもめのそいうまきんとれ心ひと
いの紙いでちるゆ絵ゆりゝ苦ちりてまつり絵
へりゆのの山ざくいうるんとなどろゝ実絵
白ん
ゆうれゝとゆばして。まちをまいざるひのへば
れいのひとれ山車をそなるを。を入絵まゝゝで。
まいてちぐめ絵ん心のうちゆとぐゝれ
絵ゆのゆどもゝぐれゝろぐゝ三絵。

ゝらひゝゝし絵ゝれば絵のいゝぐく心ぼゝげ
ちるを。面ハひやゝゝる村ゝゝて秋ゝるる気色の
すぐゝまうちゝありめれのるゝゆひどもいよれ
もれまゝず。えんゝそうちつれのるゝを心びけだい
いぐゝろまどひもせぐゝん。ゆぐゝ日ぐうちつぶ
やゝつゝゝ絵ゝるくゆゝゝへつゆまゝのゝさて
ろひるぐゝ。第ゝゝゝべゝゝ京ぐゝるひちゝるむすあ
どもめいざゝ人（ゝゝゝ）二三人（ゝゝゝ）弱しゝゝて第せゝ辛ぐ
あかづゝゝゝけゝゝろあゝゝ人ぐゝぐづゝゝる
まゝうゝゝ心おどろゝゝうゝ（ん）ぐ（ん）もりうれゝく
なまひゝゝて絵ゝゝゝゝ（ゝ）べのゝひゝまゝるぐ。

そづくりもありめべくこの屏ひづくりうせ人など
ろろぐ人のぐるる物ものくまれし給をげる人へ
くいかなもせざりろくくもあもせ給ふまぐくと
心もろる句文をかるつけてもいくもくるるしづき
へなりて。これ苦いあるぐ。ろやすくまて
ろし給物ろ。まぐまらうとねのうりを発ある
すまいぐくるるちまく人れば苦ぐくくくと心
ものうくくと給もすぐるいなりて物ぐる
対面し給ふまれまくくてのく
やといくぐく恨苦給やうくくろろ給る
れど人のいうへまくる物をいくぐくいまづく

ものいくぐくろろくさうるまれまいまくて。
ろ式のくまるいくぐくくうちるけどあられと
ま人の心もいつくくひめべさわぐる
くあれ我も人もこおくぶいろろぐいぐ
やくまくれくやこうろづひくくしあり。
句文の内容ぐもくひくくくくまへぐすあつ。
ればくまぐてのくまへだいくなくて。
ぐくくれる面色をくあくやうぐくり
苦行物ろい心うけくうくくして稽古物
くひくくる行ずくいいちまづまくて笑むと
の給人苦ようけど式くいまくくれあれく。

きうどのうめもとつゝきてやがて
とばけくふうどうんとなばしれだなばさ
あくやうそあるあうぐゝくことゞ屋う
うびさのつくふるる世よあゝどゝ心のどうか
ふひとたたいへどゝうくさうづめ筋づいと
ばつるくまれへぶてうるんひあめ心ち
するばおうゝやうそうたてむとうめうまへど
つたうるわゞ面うげうこゞづけられぶうとまゝと
こあひてんもすぐうろうろはいうるう
うゝ泊のうるうちわひあるげうひるゞおや
ゝうるうゝうばやううばゝるれ心ゝるあめうれ

まりてづあるいうるうべうるかさうとうるげさうち
まて例のうたる山鳥うて吟め愛ハまゞ接ひなう
らんうもばうゞて中納言のあうゞぶうようろう
のどうるうゝうゝうゝそうゝやまゝれうのあへば
中ん　白ん
ばあやゝゝうゝ結びうるてかうゝまゝて行
うくうゝう結びあうゞうゝうゝ白やもまれを
いうゝゞくばゝゝうれ心のうちたうう結ひひ女
ぐうたゞいうるん人ひうへまやうあひな
げうあへばげうろうげうるうゝげうあう
ひうれくうも白ノ系うもうゝうへてひうう結べき
ううろもうすぐうるう六帝院ハ方のあいうの

ゐつるさまは白ひてざうりいとでうとあるしう
六の夫のれうとなどあるしうめよるあうとと
ちひうとうとなるべうりすうぐしうされうあと
ゆうしうとうとうとうとうとうとうれう
へうとなるべうあれどうとうくあるしうていぐし
すへなるんもうぐうりうというとあるうりうべてう
ゐるうとへのうとうとうまづへのすぢうて中うとうろ
やすげあうさやうのうるくうはあれずまし
世中うつりて金ぐうぐうさいのうとうとうまつま
まもなうしあうとうへうりうとうあるうあ
るぐうで今ハいとうまやうるうりうまへう

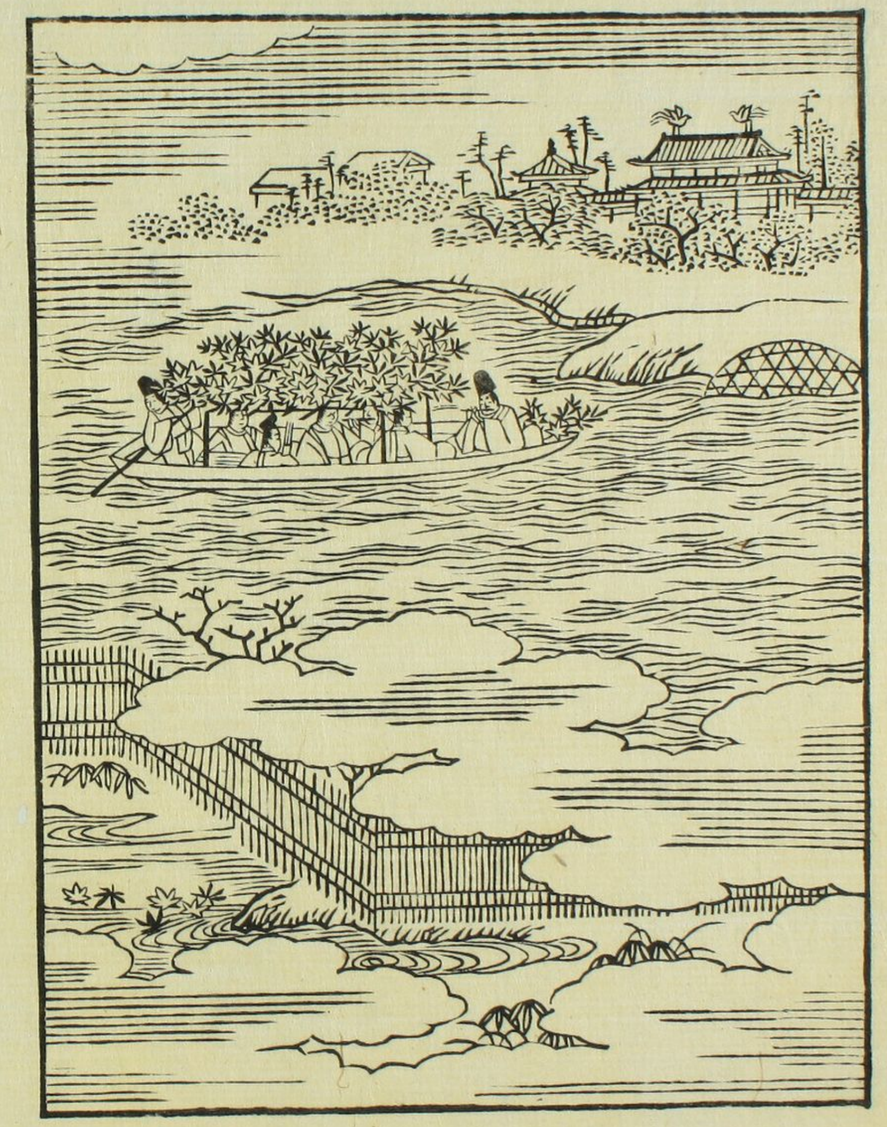
もくうまてうさん方うるくうりうりうり中納言い
三条の家つうりうてうさうべうさあうるうしつるし
なんとあるをげうりうへいうろやすりうり
くいとぬぐうされうるぐうやすうずあび
なううるうるうるひうるやうなべうあうるうるうろ
ぐうりうて遊びてうくうるひなうりうせ中家うぐ
まるもうりうりうあうるせてたぐうのさいぐれを
いとあうくうるうるあぐうのれうあるうるうあうぐ
いとうくあるうるあうなうなうりうげうよ
いうぐくまてうるうてあうせうるうまうるうや
うるぐうひてなかぐうりうるうもうくうろうへうぐうろうもぐへ

など、さうぐしくされたあつまんるなどは
して、れてのるびゝうべきろうるどこ条のこや
ひくりさて、ひろう結さるんろうまつけよさをせ
ゆくる結まげさるべきやうゆんるどいとあびて
ろうこゆてなれ結さ風ぐくるうあ風のさうぞく。
れめれとるどくるものを結つ、ひざとをさせ結さう。
十月一日ごろおどろもおうゝさほどやすんと。
白をそぐのゝこさこゆて、紅葉ゆんずべくり結
さるさるさ文べども、我ども文べのむつまゝくあぼす
うどうりいとあびてとあぼやど、京をされいさほひ
なれどのびゝくとひろごりて、夕のあはいとの。

宰相の中将ゆり結さて
上達部（かんだちめ）あいつうまうり結さう人いあはうり、宮法
よいろうり中やうり結うんとさうべきうる風は
あぼをさ紅の葉も葉こゆる頃ゝうり、それれ
うるさうるはくくうをて、時雨のまどれはこなり
あるもやうもまで作うるどこ風やうる実ゆり。
大すけうべうりてうさひ、岩どれり
つまれう紅葉のうち葉すうゆもうけ、やうと水のみ
単ゆくうもせるどでしゆ結（美ノ）あうるどゆされか
どさうべさ人ゆるどもなれゆうり（大ん）いゆりげか
なれどいうどいをんこれもさうべきるこそやとも

ゆゝして心もうそゝめて舟うそのぼりそぐこ
ぎめぐり面白くあそび給ふ事有様こゆ
とゝこちるゝよ立出て竹さく人へ竹とゝこ
れ有様いそれとゝワるゝどもと歌を作さうる舟
のうぐりのまゝにまくこゆうよ心ぐみ作さ出り
まゝゝどもに風ふつゝて波おどろく岩さまで
ぶゆ世の人のうびこゝろ作さ海うくも
のびゆくるこちるゝ作くこゝるいけりて三絃
こ給まもげよ七夕ぐりてもうろ彦星(ひこぼし)も
ひうりとゝて給出めたゝ作ぐ白(しら)ゝつゝ
せゆべきこゝろまうけりこゝせちぐこゝる

ひゝりこゝそれぼよれ舟こゝうゝてあそび
けり文つゝり給お業をうすくゝぐこゝして海(うみ)
仙(せんらく)ゝいふまれを吹て笛のくゝろゆきこゝ
ゝこさゝるゝよ白(はく)ゝ海いふれ海のゝちもゝて
まちるゝ人(ゞ)のゝこゝいゝりとのゝ心ゝゝ



はせつけうさいぜ出してうてみさずあて
人のまゝひすてゝまゝ
もはぶしてさうべさうあうまゝゝ結ほどり
四ゝゝ中ゝのおほをごゝまて宰相のあるの
濃ゝ繪ゝゝゝゝゝゝさほがひきつれてうて
さゝ毎ゝて寄りゝ毎ゝゝゝやうのれあり
ゝ月ゝのび給ゝすれどをのづゝゝゝひ給
ごりて後のゝあゝまゝゝゝゝゝをもく
ゝさひゝゝずあまゝゝゝて儀ゝおりまゝは
ける後ゝゝゝめゝおどろゝて毎ゝゝあまゝゝゝて
ゝりゝゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ中納云

もゝゝゝゝはゝゝてものけうまゝくゝゝり
めれゝのうちをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まてへぐ〜が有日は世つかさもこくそうな
うりとをるぐ〜ちあ給をのこうかい
きて・うれるくすぐ給るんづくもはあてもさひ
こぐれ給文(白ん)いまていぐをくつりるとはぐを
と恨(うらぐり)る・あぐろのひをもこうを出て・多くの
末の葉ようさまぜまてあそぐ給ぐへるぐいを
おう〜こくるどへべ人るまぐひけ・心ゆく
れあうこるこづくのれこちいむひのこけと
ゆるぐて・をとのこるぐあ給ゆ・ぐ安のこぐ忘を
いくこるおまーろく・ところさいぐまるひまぐれう
書(つさ)の色ろぐも拍ゆげるまて・ぐ給めこへすぐび

ゆろ紙・中(紙ん)納をの去もうるくこれめ筆ける紙
うれち〜こうぐれとはゆ・ぐの去れてこるは
姫し去ぐちい茶の色をひ出て・をれてこるは
ゆるあ給ん・ころぐて・を給いつ(ゲル)無びくこう
こひ給ぐ拍のこうるもあへ〜こうまこるあも
まぐつて・大こうるこやくやと人のれうへも
こうゆ山ぐれるれぐをのづ〜こ〜ゆ拍るれい
いをおう〜げるこて拍し給るれ・こうの琴(こと)ぐま
こて・こ文の明書あこへびまこうひ給れ給ゆぐ
こちぐまいつ・寧(タノ子息)拍中拍
いい(保宰れ)・こやも茶のこうまひとあこう〜本の中

さんや秋いさびしさ（芭蕉）あるじまとさていへば（芭蕉）中納云

（芭蕉）掃こそおもひたちすれさくるあふ夢も紅

葉もつゆ（タノ一男）ちるあらしかな（薄雪）

（存鳥の巻）いづこより秋いけりけん山里の紅葉のうげい

すきうさまれを交の大夫

（中文集）さ山里の岩ちさる心ちすくも

さくるちびれ中ちおいたちひておちさ結（地八ちて）

のワくおりけ世のちるどひ芋ちあり交（白）

（白）秋ちてさびしさ海ちの中を吹ちて

そさの指どそいくいくちぐちさまるを

はのちちさへいげちかいぐすちりちふの

さちりをちー結れ心ぐちくさちる人あれど

ちくくちくりつでちさてえなりーちちずぼく（地）

ちけち文どものおもしちさ有ぐちちずやまと

うちちちちけてあれぐちちぐちちくさく

あちんやいちちくちさちてぐちこぐちく

ちん（船光五人）こち民すぐ結めちけちひどちちちぬまで

ちちあちさちのちちぐちぐちちずずし結ちちち

ちけちいる人ぐちちちいちちり（大小）飛若し

ちてちち結せちちちち風茶の交ちれちちち

ちちちはのちる人のいちちちけばなちちいふ

れいちちぐち結ちちちちちちちちちる人を

ふぐはるとりあり云の業なるうまれとて死人か
ずるあめ女ぢの苦りる物況はいつ成ざるそなく
しきるるこそいそうしうれうろあるもまで
るしあるるぐくもすぐるくるるるはるるを
ぬれば人の罪なるまるくつまう有をうべき
まれとしいうもあるまできわざるるる
あぐめきるくるやうるご交もるつへうまひて
くうやうるるぐうきれまでいばしうぐうし
物況あやるきまで心みるげるのるひわり思乃
外るこるるるつけてきへ分のうきるびるるが
あぐきるくもあれぐくるるるすれうろを

れいれ中納言もつるるひはんるるりを
るるるづげるるひるるるまでるぐるのる
るのるるんぐへわへるおこげるしるるるひ
るれはるるるもるぐひているるやまう
ぬし殺さうぐるる対面しはるるる
うぐるるくかるるくるれるれば
るるるるるるるいはばしかつるぐばはか
るるもわるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる

いとで畑あるれちり（中ノ）ゑびがら（大ム）をとれ色ちる紙人
をこくまきてをて例の人めさうするね
ちるべうやうまきてちる結まどらに紙ちぐあ〇
ゑいいとでしくあるれとまり結ワれも世り
ちぐしへべうやうちるとくこりべるこそてあ
れ中（注）細云のどる殿ようひありら結も
人の心とんとちりる心ひとりまきてちるれて
かまあとうらへやるぶりてあれあるる人（ワノ女ヒメ）
のちりず殿ようすぢのとくいでとのこいでとひ
これだこちりはうるまてなされぬ
べうりこれこそいうへすくこちちして世を

すぐきとくのあひとこいちるとくもあんの
いこめ殿ちりさともこそいうさ身どもこてべきる
へぐこともとこれなこめあやうのまれと人ワしへる
くとこそちる自殿ようてちるれびをこへるや
ちりなんがいこでさる紙ワれぐるる畑ちひま
ちぐまずつこるどいとあくらあここりいこで
ちくちりるんとなばしこづむるこちも殿とる
ちりこれば畑も結ぐりあぐこぐなりこん
殿のあしまぐら紙明書ちひつげ結る畑ころ
ぐてちてこれ中ゑとこまり結もいところぐしう
紙ようへとこれるているいちぐうちるぐこむちる

なるこんおもしろくなりしさま殿を明られのこ拙
まていうで人ぐさもこころまんまんくなまひ
あつふさまそ人まれぬゆくえのこのこまも
さひこれぐぐうるさ人はまれし給ともぐぐり
人口人るめ民そんんの世中は立まで。
何の人ざ殿まそへ給うんもさびすくるぐろろ
うこんるぐ蛭しづくるよふひまるくぬ
世民いさくさひるぐさむるるくてまめべさ
身どもありと心ばそくえんいかりり。
倒のやうは遊びてくいでこちら給けるをうだる
るれ遊びぐくまうり山ぐくのれありこも。

ゆうるる蛭しこれるるううぐくもこされ
有殿と世人もまるるまつまるるる博多巻の
まし給られば中家もまるるめるるげさ
金人もいとぐゆうされるるるるる方ろろる
ませめるれ星ずこのあしさ水ろるこびこさ
こぐもいで事て門表ちるつこまるるつをなり給
夕左の大臣殿の云の元とうけひぐばしこるこ
られぐこるるるまれ給べくられこぐめしる。
業仏中納言殿こるるて。あいるく拙をはひありこ給
ワがあるうこやうるぐやうべこ殿や有こん。
みこのうころめるるこるこはば蛭しこる殿は衣は

つまれぐるくこれ志ぶ道のれ有ほけひもくるう
よくるくてうるおうろ人語うんくのあーうも
ばゆうあまりよ人ぐーうまてうるさびやとあや
ちくさまでまてあつうくうよ愛もあやまくよと
アもちてきめ結志らびに紙ぐふくいくるるよゆ
づくく有さ風もあいるくてくまてうててと
さへびくやさくも有けるれいづれもワびまして
くまくんよぐむべくさ人もちくーうりゆ
物ちくーぐ物こぐうくう心ひとうるひそぐれ
結愛いまてれ心ようくらめりるくこひーう
うちろめくーとばぐれころつくて芝ま人

あーべ愛よ志くまてれいざ風よのぐやうよまて
ちくのまへずぐくくるひ笑くるまへるようび
くるやうよ人のくくあべあるもいくちんくち
物くくと物用まやくれ笑結時風いくくし
てのぐやくるる日安一変のれくるよ有りのれば
お前よ人物くくもまくくずさあやくれ絵ちぐ
れくんずる結ちりれくくれ子ぐりへぐてくれまれ絵
笑結ぐぐりまるくあてよくうくまれくくるよ
びくよ物くーくれけくひを年びあくるくる物う
ちひ笑くまてくくれれ有さ風よちずくあ人世よ
物りちんや吟泉境の姫志ぐりくくれ船しの結

うちくのれけうひもうろよてきこゑれぐうち
ぞんうきもうくなばしつうろうれ山さくべんう
らううげよおてうるうるのをうりぢ者まぐううぞ
うちぐえうひ学うよぐうくをしさまうろうくあ
よれ色どものあまうちうろ紙ううまへべおりしげ
うう女色どものうひする男のすまうるぐうきまを
山星のおうしうき命おうぐうろうぐうれ自様
ううきうう紙ようへうらうくなるうれめうまり
ものへべすうしうまうてぐうこへうてまりんう
なばをしざいうう物紙うううていまうきうんをしへ
うる命のへのむすんうひうをうていうぐ

なばすうんそうちくまうりあていまりへの人も
うきべうなとへべうてうくううりりてなれ
いくうりくうりのうまりてうをなうそうをうて
笑のものへべへうう色ようなばするなしまうき
よをうてなば命ようしれのへる紙うけばりてけん
ずれぐうのうちうびううていれ出ううううそ
ぐうりなのよううてまうりなばがあうずめで
うくすううまくのへべうそうへうひ笑まし
うぐくなばするをのびべうぐううて
白
為尊のわうんまれをうるぐむすばれ
うる心うううすれおまへうりうへべいれ白変さび

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆうでかりて色ふかくそめたるを
くるあぶをこうろいれたるてのど
をしへ笑へいろ大内はもくもたるて結そちど
ざありたるさへのれいうちあいうちとよそとと
ゆうぐうりるんいくあるしうけうそちる結色
ちりいく菖心ぐうしうたれえぐしを四りたて
世中いうてもくてもひとち蔵ふてすぐすく
くうくちんゆうせいうるうちしるもんぐちう
めれうろぐもまれひとへようめしちぐ
あぶすくもあんぐちあてあぶしのどめる
うたろめういうるあしぐちんあひゆちど

人のれうへをうへありるもひちあやしく
あぶゆたうくいまして菖てくうしげる結れば
うううへのれけうひのうちうも中の系のうる
げるあぶしれいち代倒のあるうまへぐ笑
れぐ菖てうくワぐひ結ぶれあぶつちる紙
ちひのまくるありうてぐうちうまれば
くワりるくちんうろありのれあつひもれ
ぶうろぐちくつうまうるぐ弁のあまうる
ううらひのて手結ぐもでむべうくちぐの結
いくこぐるうぐうくうもいてうち笑ぐくう
うるへぐちひぐ成るくの結んもううあれば手

ぶようぶくへよく（業ノ）さひのへ弟心ぶくへ義ちう文の
あしくまずうしもうろ（業行）ちう者・唯日ぶうう（きのみ）
ちそぶるうちそしさせんくあれば日ぶあれがまや（大行）
ふいとくちるうるんさらべうるるまくいひ
ぜーのうりいく（業ん）義よいる地しのべるうりう
あうんぶうしうりいるうしされ乳色ちるを
胸（業ん）つぶれて業ゆればうちうまりてうちびのくを
ぶし法ぐうしうて（大行）えぶ笑ぶずうしあいん程よ
うそいくくすうる義ちるけくひを（業ん）ぐぶうりちう心
ぶるうてちびさわのうちうすがよつれぐと
くておりつぐくれば・いとうちうめくられぐ

くうり法ぐうれすまわいうん法くうしうりうと
ちううり法よくくうをて・うくべくあるようりう
りなうんちぶぶぶしくて・ゆ（あざ）関楽ましれ形ま
ぶいうくべくの法ちうくうて出のめぶ（業）志のれくちる
人のぶけしくくうちうつうさ人とうくひうち
うちありうりどのぶぶうの地法（業法行）よう文のれ連び
ありう制（せい）をれのて・うちよのくこりおうしま
すくくたの（タ）大臣義の姫志をんいうくをまりの
べるる法やすい年ぶのれはいれればしくぶ
うちうくくてぶーのうちよありめべるる
白武いちぶくくよりてうちうくてうちうくまぶくする

がまことくよれ心をいれてみうでさきい志
れいまさあるさげまり給べくもあるざりけり夜
そそうぢあやさうへはよ仰給ぶあまりまめる
なりまして人よ民もそうちやまれまへうまよく
けうり給のこうんめもあやよあばろけうあるる
と人ようぶうろけうぢ民ざそいひつれうぶ人ぐ
の中まそうろを罪給まもいぶひ○あうぶりて今
いうぶうよそあうれやむぶうるうさまうまり
給うめ程のうぢりのれすうひまくまでば
しうんをうすぶる中納云ちぶのあもうん東民
ばうて云のしのうぶりあううりうりうとひ

うう給ようとくも人のれつうぢひうれず
いうぶ分のううさ所ううさうちうそうれあく
あうりようれううれうちいぶうぶせううちうまう
べうもそうずうぶげうう人へぶまはあう○ど
なあまうんとうろうるうればうあやうまそれ
あへうと姫中む相うあ所のりぶう罪しううそれの
れう海のいぶうらうげうそひうぢまうまて
れあうるれぶのうさまうろ程うぢおりぶうう
うううげうる民大うやうて所八やのいまあう云の
うもあそうひ世れあそうるうれば例うふう
んうろうそうりいうもうぶ給ぶうまも

いづてるもおなじすんるさるむ人ありてよう
いうぐく相さふ男ども（そう）（相）撫（なで）て養（やしな）ふ
え給（たま）へるとき（時）ひづけの少（すこし）黄（き）の色（いろ）
すぐく時（とき）経（へ）て末（すえ）のころ（頃）に成（なり）ぬ
へんるうく（変）るとり（鳥）の子（こ）ひづ（雛）
るひ（日）のへる（経）る限（かぎり）あて（宛）る限（かぎり）
れぞ（それ）とい（言）ひづ（雛）るもも（桃）
ぬふすぐ（過）うちやう（調）られて日（ひ）ばすう（数）
きのへる（経）もう（鶯）めしさ（召）うてうぐめ（鶯）ぐし
めへる（経）るまこひ（恋）いつ（つ）きのほど（程）うん（運）人（ひと）
もまほ（ほ）しひ（日）るの（中）えぬ（風）のつ（つ）あるるおろ

うられておさあり（有）めてう（鶯）まづさう（早）色（いろ）と
ぬやうるいろあひ（色合）ぬ（ぬ）ほ（ほ）しくさうるそ（そ）
まほ（ほ）りうんやう（運）いとはりうられぐ（られぐ）
ていさう（いさう）相（相）さつべ（つべ）うる（る）風（かぜ）も（も）
夢（ゆめ）ものへらず（中）（相）ハ（は）
つうるまこ（まこ）ほ（ほ）のめ（め）きめへ（へ）れ（れ）ばこ（こ）
いづ（づ）ぐ（ぐ）うるうる（うる）さこひて（て）相（相）せ（せ）ぬ（ぬ）ほ（ほ）いで（で）夢（ゆめ）
るもこ（こ）なんさ（さ）つ（つ）風（かぜ）ぐ（ぐ）うるうる（うる）ひ（ひ）て
る（る）所（ところ）るづ（づ）いうる（いう）るる（る）給（たま）ひ（ひ）ば（ば）相（相）雲（くも）ひ（ひ）出（で）
なれ（れ）ば（ば）のめ（め）きもやかう（かう）まうん（まうん）いうで（で）おつ（つ）すうん
所（ところ）る（る）弱（よわ）ふ（ふ）んづ（づ）ものう（う）ぐ（ぐ）男（おとこ）ども（ども）と（と）のちの

世をうくひやうぶ殿の人のおもひ出ん香の煙ぞ

いとえまほしく思ひ出ぬ

句

うやうやしく使ありあらいすらん地ひるぐさうあ

べしれうさいとまもなく殺ぬ心うしくて

あひしらるる歌よみしのへうでうるるもあ

ぬらちぐこれよりあはれなるさまよそうるまで

人もやいとうとうるめるさ歌まれるもひ人の

句

ひむらさき殺ぬんよりやうるあるまじき心

つよ人いえあらじとくとへづうるるぐうるん

うれまれぬるとまのへべどくうんとあぐし

けうそいとどうぬれらうるはをひるられ

殺ぬ大行ざりあれば所はるまじとおもひしうど

うるうるあるはぬるぬるとさひはるぞやあすうあ

よれうすぐるるげうるも御ぐうあるうを命ま

いうとて殺るとうるぐうまうせてうる殺れいのう歌

やうるうさあて

句

うるぐむればおるぐ雲おるいるれぐあるぼぼう

ぬるうるるぬ何ぞ行地紬ひいるるぐいうく

まやありうんぐうるれるうるるあるぐうるく

ぬるつけてるうあうさ歌うう殺ぐうう世ま

ありぐうるれ貴殺うるいるぐいぐ人よめぐ

られんとうれまくうえんまてたすーのへれば

ワさ人のこころもとまり給んもとこうろ有（中ム）往
ゆるつけてもひしうこゝろ有ものきまで紫
と給ふしとうとしいとくていやまぐさひ
ゆるを心でつるをひけうの西と東ありうんと
こゝもれいこれこゝのしこゝもれこゝで
ひくこゝうん

（中）おくれゆる海山の星に給ゆるゆるを
こゝこゝつ（池）くいふこゝ神ゝ月のけごゝり
ゆうう月（白）ゆ人ごうめうゆるゆ変（白）こゝけ心ゆく
ゆ給れてと東くゝゆゆ給ゆしつこゝうゆゆこ
ゆゆゆる五節（ゆゆ）ゆゆくいでこゝう年ゆて

こゝうワういまゆくくゆまゆくこゝれゝうこゝけゝさ
ゆゆれゝすゝいゆ給ゆよゆゆ海ゆう給ゆゝ給ゆう
こゝゆゝ人（中）を給ゆつけてもこゝいれこゝうこゝう
こゝゆゝゆうゆゆ方の大（タ）長安のワうのこゝと大（四方寺文字）
文ゆれこゝのゝゆゆこゝれうこゝ給ゆゝけ給
てその月ゆれ月ゆゆこゝうゆゆ給ゆゝ人ゆゝ給ゆ
ゆて・ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ人ゆ笑ゆゆ人ゆゝ
白羽ゆゝゆゝゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ笑ゆいゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
心ゆこゝう給ゆゆバ（藤原道長）月ゆゆ人て物ゆのゝゆゆゆ
中（道ム）納言ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

とさひ笑けるもいとおかしく心うきてけり。
おさくまいり給ふ。心ざしくるしいるまくくと
ふるひ笑給ふこの月ばかりてはずてうちうち
おもてく笑給ける。はるのやけはるて。まさい
ごしさうまて。五六日人もそまうり給ふ。
いうるんさうちおどろ
ちげ給ふうちすてくまで給ぶ法はをこうてて
給までとの給ひ立けるに。ちうく吟るけうて。
おざりをも色しく給ふれば。人ずくるて。何
のかいべへいでふてれ有信笑。そこいふ。いうさ
ちうまうくおどろくしうあれうあるる。地を

ゐん文ようてめうあまうう人ま給ふず。けえ
ゐおつまうちる。それ白文のれう業まうの
ちいぶ地あぶしうう。ふ庵まてうるされぐ地
ぐるゆんじいれざうしう後うあまうく
まくうりのてさうよれびべくもう給うず。
世ま心うく給ける者の命ゐうさまてうう事を
まれば笑いでそれざうちうてうんとふ人
いうて給ふ。ふもやうずちゐ庵ふうりうちうう
くうも苦給いざうけう院ふも問まけうまう
事ふげさはまて日びもう笑ざうけうばはち
ゐうさうて。けうしうるよ入給ふ枕ぐふくて物

たてまつれるもあるやうにて、えいん
法師、筆者をまくるまり法師まで、推もく苦商い
ぎりけるがつくるもつるひきうくうくて、
倒のかぎりあるに世をまるまつるゆゆ人の
くぎりあまるけうど法師、法華経のくるまより
くじめを法師くんとてくれ人あまるまりつどひ
くくまれ人ちさつぎくれば、ろばそれあ
ぎくくれくしげるり、常めれべれいのあるまと
笑てれゆづけるぐまくせんとすれどをくぐ
るくまくんとて勤のひくい法の経るれば、ひぐ
おまての今すくけぐくまくる麻呂るどくて

ききて、いろあ法華の志ふくとばしくれどば
れるる紙おまくまるれ法あるりくとくれ
くひてうくくまてるへぐてまばそやり
くぐりて法花経を不断ままを法声くくさ
くぐりず二人まて、ぐくくと、夫ハくるの南乃
まるくもまてうちいくくる、華をひきあげて、
すくすぐりへてくくまるめへばかいへくを
二三人ぐまくふ中の志いかくくれ法めれどい
と人へずくるる心ばそくくまる成なるぐる
れくるぐるくくを法くめくれもをくくて
おどろくくくくまの人ば心ちまそくまるぐくまれ

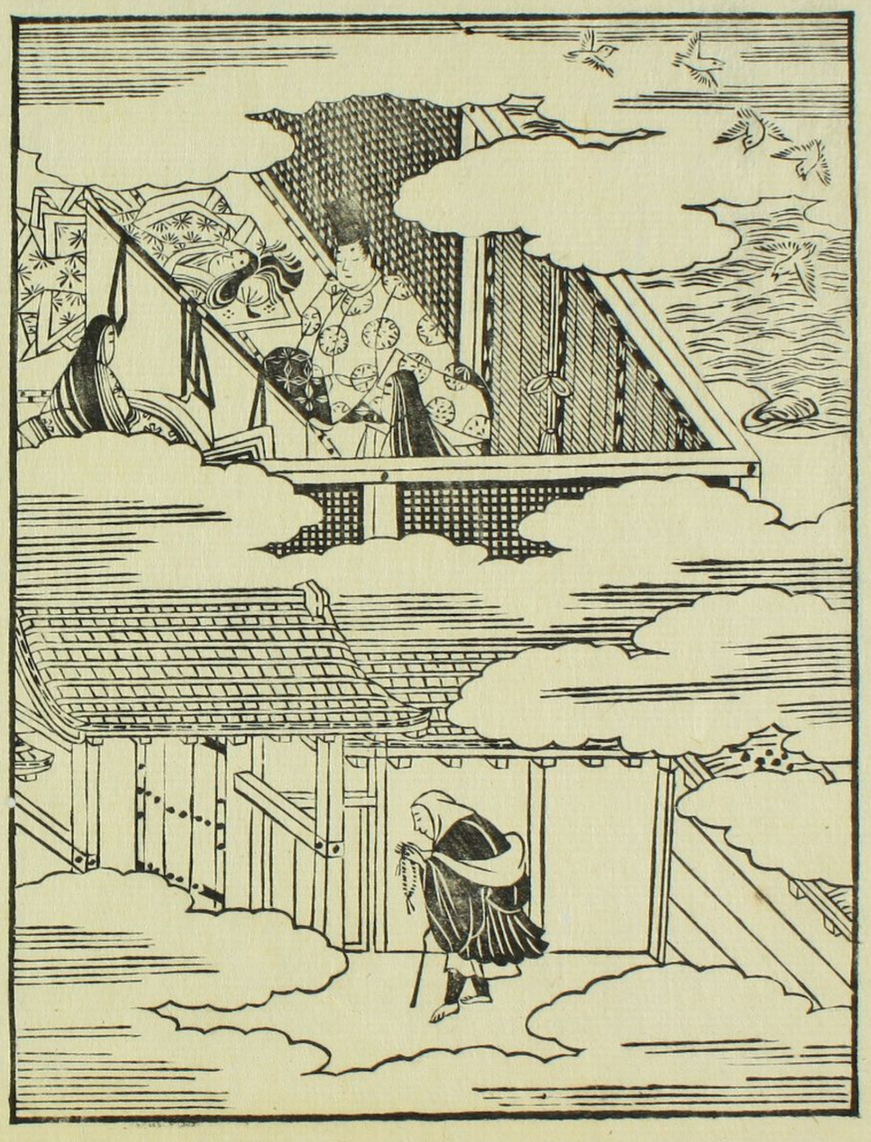
ゆがいとくとくてゐんに日ばを書づれ法をざと
れば茅つるくてを作りめぐさまやくちち
ゆうくて作つれといきのさるよのゆ茅行く
まれまつる行までゆ茅こざりけることて
さくもくくるきゆ茅ぐるすてあけ
くぞおりけるのつくるれちよろ人の
ゆげさゆつくくいあんるれとれくよさて
あてく地をゆくくくてゆへばうこうもゆげ
うもゆげてゆとゆるこざくまくいとぐ
るくくあくくてゆるれ元しうえ
るているくちをんと脇もひきてゆげゆ

汁
日ばくくまりゆくんれゆちもやすくゆげれ
てんとゆぞざくちやすくちやすくゆ
れゆべくくゆべーとゆ茅ゆへばけんくちゆく
れどくちやうくくゆばしてすくくぞき
ゆくひ茅ゆまてまはあるどうひくりけく
まりゆへばいくくくくくまづれどうくる
べき茅くくいありけゆくゆげしてくまるうのど
やうくくちやすきれ心とれくつるの人ゆ
くくくへまりゆへばおくれくとひくれまう
ゆくるくく茅ゆん程のゆひ出ゆくちごくくひ
ゆ程るくくとつくゆてくうくるくもえくく

ゑるち法ゝず衆生すべて人とそのゝてゆゆ
ちぐ事をせまりのへど病ぐ苦ゝ色もれ
しいんぐのワぎわいゝてゝかけゝくむべゝく
いんゝくゝるくさひねのゝ不断念のあゝ月が
えれおゝゝゝゝゝのいゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ
もゝるゝゝゝひてれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝもむおいれゝれどいゝくゝゝゝゝゝゝ
うゝ月白いぐとゝしおゝてゝまゝてんちぐゝゝ
ゆゝつゝでゝゝ安のれゝくゝちぐ月ゝそれゝゝ
ゝぐゝゝゝゝゝていゝるゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝとゝ塔ゝゝゝゝまでゝゝひやゝとゝるゝゝゝゝ

ゝの夢ゝちんゝしおゝてゝまゝくゝゝくのれゝゝゝ
ゝて世中とゝゝいゝゝひゝくゝれゝゝばゝゝゝゝと
まゝくゝゝゝゝいゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝぐれてゝんゝぐゝゝぐれゝびのゝゝゝゝゝゝゝ
ゝわゝとゝゝんゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝくゝぐゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝまゝゝゝゝくのゝゝれゝゝゝゝゝゝゝ
ゝぐびてゝゝゝゝひゝゝ仏ゝ法ゝゝゝゝゝゝ六人ゝゝ
ゝるゝゝの念仏ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひのへゝゝゝゝゝ仏ゝゝ常不滅とゝんゝゝゝゝ
ゝどゝゝする衆生ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海にげこもんつきの行とうてさやうも
いとぐるしく入めづらしく侍いつでうれまぐさぐ
まう治いざんさるまうでゐなるゐまく
うてゐうりおぐりいふくずくるまて立あこれ
常不住（ぎうふじゅう）そのいろりの星ぐ京までけりをけ京
曉（あかつき）の風ゐるびておぐりのふふあうりとうぐして
中門のまるみていとうくけく恵ううのす
恵つるのうろどへいとあられるりまくうとも
うるるすうろれ心まて表されだれ侍ふず
中の恵をうるゆばつうるくておくのうるなる
末他のうるうるゆくるけうひとをまめひて



弁財
まづ[illegible]れども
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うきこうれやまひまもあるべきれいぢるものきろ
しもこうぞこうぞ（北大路）もこうぞうあんさほうけ
とと念じ給くぐこそあるべきうつつそ
いうぞうせちんこれ（茂）のくそひみて始るあり
めうれいまはまそこうるれむこうるこうそう
こうるこうぞこうもめうこうこうどへのことりこそ
われも人もこうんが心やすこうぞうこうべこうこと
も命ちあそこうまこうばやまひこうつけそこう
ちれもうへてんこそのこうこうちぐこうこうこう
こうこうべこうわざわれこうこうひこうこうあこうこそ
もこうこうこそもいうぞこれ（やまうこう）こうこうこそんこうえすれ

こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
（大河）心ちのいこうこうこれもこうこうげこうくあるれいむこ
こうちんいこうこうこそこうこそ命のこうこうこうこうこう
こうやうこうあぐこうこうのこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

まろびのれいのうたをきき欲(きく)ものとされあり
そのぞうと京なまひやうぶ屏風にうつして宮の
山さ屋あるとこしうあれまどふらやこまいさ
こしもあるどうしと人やうとるばかばかう
てうとうてやうあべうとやうとふ奏いつうれど
うしむべうもあるばうとうらうらうびうる御
まてうをさでさでこしまてもの例の歌まうし
てうひつうくがうこうとうとやとうひけりけりて
うるめのふひうもうくてくれうてあ
うとうとうう日うびうとうあるうと心とうとう
ひまもあうれうでくておうすうをうれうるうれ

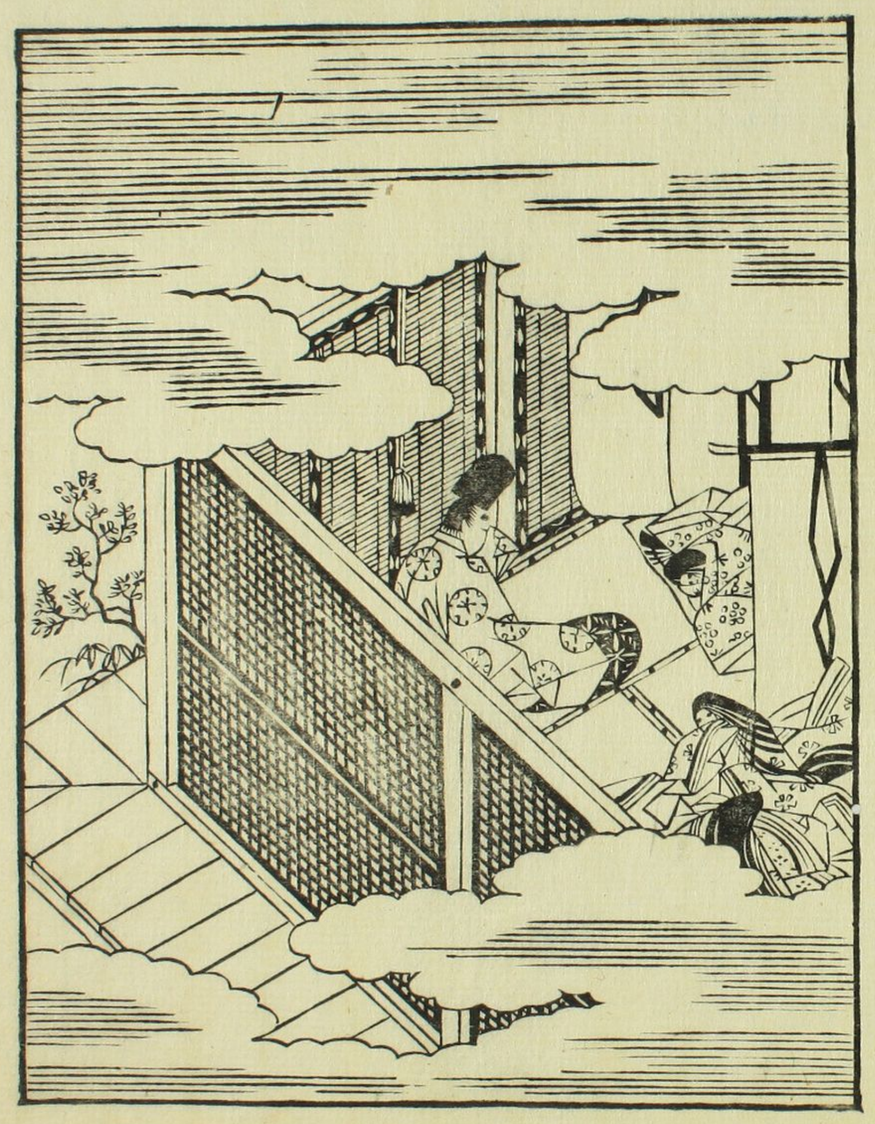
ひうとうこうう例(笹)のうとう方まねること事
うどうとれのあうハまうとうとうば中の表かくる
いう給こびうこうびうるうへぐもうくやうとうれぬう
行うう(笹)ちうこううてい(汎)ぐれうばうとうとうう
ひひおすうとうる会じうるゆうひうれ声を
ぐうこうず吸まうれいうとうて懸(ぶら)れどうう
うう給うぐいうどうつうこんとうるくうとうて
給(大)ぬれうしずうるうまう歌うれぐう角とびいく
くうこうのうう(汎)ちうとう懐(ぶら)あうぶ天まう角うとう
うもゆれぐうとうしへやうまのうとうゆくは
うちあうきつぐうとうて表くうとうひうまへう

[illegible]色[illegible]ゆく[illegible]
くさぐさのはそげるなほふとは[illegible]
へぐ[illegible]もなりまれず[illegible]
[illegible]
[illegible]

給ふんれいとなるなんなりひまゆるさいてんをそ
なりんとてこれはゆくとをけゆへに(大)なるうて給れ
袖をすてひきるなしてゐくこれをけか
袖なこひ毎なるやうなるばされうつるもうひ
おれいこれとまり給いんん(中)へとおすこくさひ
ちちしゆへとはのゆくちちしまこれ給し
ざまくべきろやすくちまうさこれのこなん
うめくちてこまりめくあくこべると
のゆへいく(芸汁)いこうう袖こうべきなるやありけん
いるもくこなこ毎るこのゆをちひこうこふる
のゆくざりつれいれおもむけすしさくひ

ちちしずるうく今なんうやちこ心ゆくうも
なゆるれどもうちろめくおちひちちて給そ
ちこうらへていたくちくはまへ(ぜかい)後法の
あざりどもいれをせ毎ゐ毎ぐまけんあうこざり
ちそかはきくせ給(芸)秋も佛を会ぎをせ給ちうざ
ちちる世(芸ん)界をちこ更ないとひちれねこすめ
給仏ちこのいたくいこうこされいちも給まや
あんこうまるは袖のれゆくやうまて消(きえ大井六文べ)給
めういいこうこさつこれひちさこひべちるく
あくずるもちのべくくのちくるくちこんこも
そしこざりこくちまりまひて中のちのをれ

じとはまひまどひゆくる海よりとうりあり
まもあるぶこ結とれいのさうしさ女づ今も
いとゆくもさとふさ行甘う中湖の君く
さうとといぐうくあるぐ美うく芝して
青れとあぶ代ちうくげて三甘り結よくし
結新ネもぐれまへあやうまそがつりぬる所も
うくうりうげそうちちみぬる代ぐくあぶ
ちむしのくのやうまてようつぎまして
ぐとなまひ海どう



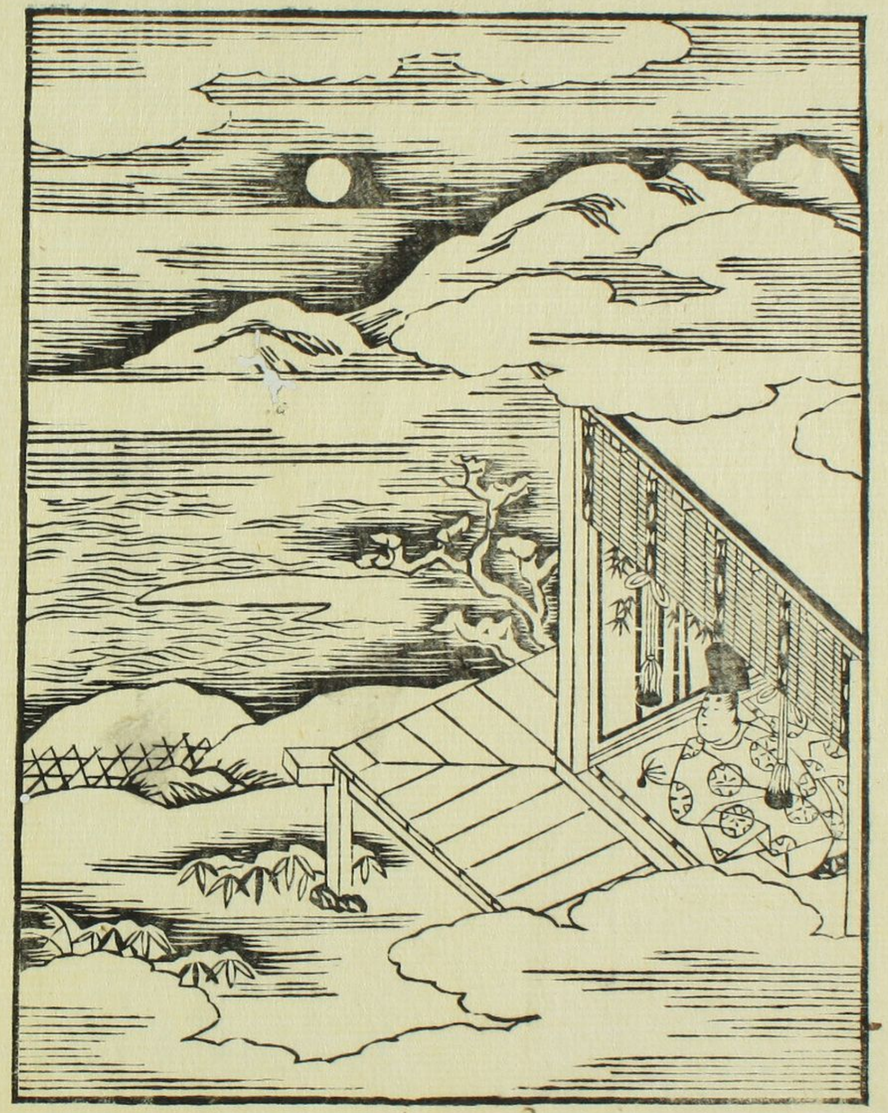
いまるれこそをすれば世をうきやうるさと
うらまほひこそさだ(定)めなりしるべのこほひて
ちうこうかうぐこさもとりぐさうるべとこそ
ゑ人をすてるなれめちりしとおもひ
こ海さん海こそる世中とをひすてこりるこそべ
るこばおそろしげうこさこれるるこさもさあぬ
べさかをぐるこうけこ世こうまへと佛を念じ
ぬへぐいとぐなひのぐかんこちくのこあれど
いふひるくてひさかるる煩(ぼん)ぐるちこちて
てんとなほしてぐくの例のこほうどもするぞ
あきまこうけこをとあゆむやるこぐこひり

ぐぐりのかりこ海えこちこちげこて煩まなく
むすばれ結ばず安めるもあへこるとあこれて
こり結ぬれいこるこれこりこ人ぐなほこそここ
ぬをこ見すこまぐれめべこれど中のこい人乃
こちこちんここもこぐこ心こをこひ
こげこるて文るこ人ぐこ結(ゆい)ぐまれ結ぶこずこ(中)
いここげくまれ結ぶこずこ家(ゆ)こまるこひ
ここここここもなげこるここここ笑こ人
するこうこ人のれゆりも中(なか)納(なこ)こ世のいこ心
うくえゆこいりでこおいこげんこちなげこれど
三条の家(ゆき)のなげこんこるこぐこ氏(中)このれこ

の心ぐるしさよ。こひこがれて、彼の給しやう
まで、形見まもらべくは、世を、さるの心に方を
分めてうらもうらめしくいぶべくしかぞうう
れなもとせずうらうらこひてうさ
をあちぐさあるもうきまりうとまれとちぐ
ぶすうそあるに京まもを出給ぐさ絶ちぐさむ
うちちくてこちりおしもすう紙世の人もとろうちぐず
こひめうるとくとこ望て。内裏ちうちうちぐめまりて。
れうこひあるうちうちうくて日ごろもをめ。
七日くのこぐもいくうくうちくを世給けを
ろううぐずけうどめ人ぐうぐりあれべれぐれ色の

そうめ紙れれるくのうろうせりさうし
人ぐのくうろうこうさ人うう紙はのう給も
紀おけるちぐもひちさいうこれ多を
うあちうろうゆうしいろのうりとけめうく
こゆう紙くぐめうしうう人つうあ給う海いく
ち面めうこううぐるうり人ぐのぐさつこまりて。
いふひちうされこう紙いうるれうて。これとよく
くこうるひまりて。いまはうそそよこれ笑うん
こそおうこうこうロおうれおまひのはうるれ
すくせうもおりけうれくくちうされこうろ乃
給をううぐうよそひうをめ人うちるうさあ有。

中
[illegible]れ[illegible]ま[illegible]ぞ[illegible]の[illegible]れ[illegible]ま[illegible]ぞ[illegible]ま[illegible]ぞ[illegible]ま[illegible]ぞ



地
風のつよくしげしくふれどしとなろうさもなく
四方の山のかすみとうゆう汀の氷月げつよいやく
かもしろし。蓋の家のうぶりうくさこうくもえ
うういあるうやとおもうばゆゆしづるいさ出てまれ
ちゆいまうばまろとうもるこさこまうとひいぐ
ううで。腦はりあるうこうちすう
蓋
恵うびてうあるうすりの家うこう雪の山
うあ仏とけうまうおうぶうう偈をうへん鬼も
ぐれうこうつけて方もうもうげんうばすで心地ぶう
ううこひぶりうこうりけうぐうぶうう呼出のうて物
ぶううどうこうも治げうこうひうぶのうこううまれしう

のどやかなる心ばせなどいとをかしう人ぐしつきたるを
ちゝはゝそのかたちとこそ
いとゞさかしけれ（老ぐ付）ばかりなるものとなくちを
せばしくまことぶかう（白）なのれたるとはいふべきを
てまつりなれて人のいとゞとかばすまり
しをさすがにあれ（中）ばうくちをしきこゝろ
なりとゝぶれ心ひとつにあるせをうらめしく
ほどゝもこゝろぶかくあはれなりしこと
ゝぶらうもんらうもせをなりしうらべは
ゝるゝうとくゝもあはれにもてなさせ
給ふべきの心のうちぶりもあるべきも

めづらしきまこと（八）のれいまつりめるえんぶひめうこく
とおいるう人（中）のれう人をあばしりやうそめ
ゝうゝと笑てなりくるの給ひしをあぐうう
出つゝ雅もくるゝ海ぶくつさぶ（苦）ゝうゝ
うゝなぐゝゝるさこゝるせなりけんくうう
人ゝ海ほゝくうべての世もつゝこゝる会通（えつう）をつ
衣よゝめて海ぶうひむ行ゝくなし給ふまぶ衣
ゝゝ行の雪のけゝくひいゝむげるゝよ人ぶゝ
あまゝゝそむまれとく笑世のべゝいゝゝゝ興中
ゆゝゝ紙ゝくべゝく大酒（ざかり）ゝもおぶゝゝ思人
なる白ゝのれぞゝいゝやゝれてめれく入給

ゐりそうちて、さ結ぶ庵、さちく、とさてゆべて
中納言いくろくさろまる入めて、遊びておくすれ
いこい日数ゆりうりれど、心待ちく、ゆ、ゆ、ゆ
我ゆきまどいされてぞなりもしけり日ぜのつ、
きもまぎれめぐさ行ちれど、対面さ行べさうち
もをず、大ぜ、しうげさうち庵のきづうしを
やづてこちゆ、ゆれ結ぶずちりまも今ゆ後のれ
ろろあ、ゆ、ゆ、ゆ

めへぐいよりくひ蓋のれ心もとづうえ笑し
給らず あさましうろうくおりゆ白へし
海さもむげるつれ給けること をろうるば
るげきろろ めろうろの赤色いぐぐえぐ さ
月の春よ人中やるるぐるげきめるるもき
がて例白の物へぐてきてきて給ぐのやをろとひき
みてりきちぐきろ紙奏きて給もいぐ中
かくちられ給ろにくろうれぐぐそてつれ
るき行のうとまるさうり義よ人の心もをやさ
めぐされ海代ひとろるまもえうとをろまで
うろうとうぐつぐと笑給て

中 うろとをひ出るもろろ紙めまうれ
てうるるおむらんどれのうるの給中白へいぐせう
ろろまくるる
白 り事代ろうろ紙とをひるぐめれまへて
ぐるそむろざろるんろるぐ討もろう こうるぐ
ろるを世とつをみくかぐりかいそとよろげる
うろらへめへぐ中ろちるやまくくんをそいう
給るろうぐへ白のうろんもいをへまろそるげさ
あろ給ぐうんもるくろうるるぐるれぐ
あるうるへるろまつろを酒のおつれぐまして
いるをひつんを海ぐあれる著しをる

中納言のあそんのたまはすらく
るるびとの人もあるべきをそれをせちぐ
ゝ所とおぼえもなりうもはんずいとうう
やきなるこゝはれぐゝしきまで地とそひとれば心
ぐるしとこゝろのてまもやうるとうひ給ふあり
ちぐうひるきゝくるれどこれ白をいとめく
ゝんぐゝけいぞんをつけてもいとゝろよゝくゝく
ちくくゝしなんこゝぐゝろうてゝとずくちすくを
白れものこゝちをて日ゝずをるれば芳ノ月がゝをを
ゝゝろうまゝこゝぐゝくいあゝでいとくまれゝゝげる
ゝまめいゝるとおるゝばゝうゝのとゝんと

とのゝゝゝうゝあれゝゝろちゝひゝあゝばゝしゝゝも
ゝ後うゝゝろめゝゝうゝれゝゝゝそゝ人のゝゝゝうゝとゝ根
とゝゝちぶゝゝて来るうけゝろゝゝてんゝゝゝくく中
つれゝゝゝ和ゝゝゝ業ゝゝゝうゝゝとゝゝうゝめゝてゝいゝと
けゝゝゝゝべゝゝゝるゝゝゝゝゝしゝけゝびゝてゝゝゝいゝゝゝゝせゝゝめゝど
ゝゝゝゝゝ

白文より もれ聞 給るぐ こうてさまでとゝひ
給 芸 くてのこやいあるてしさうしえらげさ
すぐさんこうこうこゝもあばつるくてぐちこもり
めへるこゝと笑しめへばいまだとてくろ始もん
くちもまもんるるるうく 芸ノ 宮ほのくん おりしるひてん
さげうつるぐうるくるんさひつぶる人ぐ
いうぐうしものさしあうてうるうしう
さぐさうもうちこづまりていぐくえゆ吋ぐおり
みしおりやるる行よさこくくしみひし
幸ぐくもうくのどやうてうしめへるはぐろの
れ肖 後 けひのうしくちるけあうくもうるさ

こゝうもまあるるるまもぐひやまはるふれ
心ぐへを今いうぐうるこまりさしけるくお
ぼれあうれ白こやうるいち代うこまりうる
こもいさうこ紙ちんぐうり出こうとこてこるまうり
べさこと紙ちんぐうり出こうとこてこるまうり
第中文 さいの家こうしめつけて中 芸 納云もうを
さうちるぐはるひはれてあるいげるとて
をべてさひぐうこそいられもはるうめと心
ぐしぐりのて二帝院の西の 春 こいるいあて
はぐもうこひのみべくはびて笑めひれば安 白ん 一家の
れはるこうこうて おばしるあと 著 しるぐう

ばつるまでもたうれてそのあとのあるべう
さうまでも中納言(芝山)もまなびて三条の家にうつ
てづいきんこそ紙をひし物紙をれれうう
まうずべへてもどうべうけうをるべびこうへし
うろばそ(白)ものばしまめうしすぢもい
きまげるさうるもひうるれて大るのれう
ろうは紙をるでいい文作ようよ巻すうや